

## 030302機械器具設置工事業における死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発生時	死亡災害事例	起因物 (小)	事故 故 の 型	労働 者規 模
2022	1	14 ～ 16	トラックの荷台から機器を降ろす作業において、テールゲートリフターに機器を載せて位置調整をしていたところ、被災者が機器ごとテールゲートリフターから墜落し、被災者は機器の下敷きになり、死亡した。	221	1	10～ 29
2022	1	14 ～ 16	アスファルト合材を製造するプラントの定期メンテナンスを受託した業者の社長及び労働者1名が、当該プラントのミキサー内で消耗したミキサーの羽根等を交換していたところ、当該社長から、コンプレッサーを動かすよう依頼された、発注者の労働者が、当該ミキサーを含むプラントの電源を投入し、ミキサーを起動したところ、ミキサー内で作業を行っていた社長と労働者が起動したミキサーに挟まれ、ともに死亡したもの。	162	7	1～9
2022	1	16 ～ 18	廃棄物処理施設内の白煙防止用設備のダクト内面を塗装する作業を行っていた際に、垂直ダクト部分で下方にある送風機内まで頭から墜落した。ダクト径は60cm、墜落した高さは約2.5m。	391	1	1～9
2022	3	10 ～ 12	建物屋上の空調室外機の撤去作業中、建物屋上を台車資材を移動中に高さ19mから墜落して死亡したもの。	418	1	1～9
2022	4	10 ～ 12	製造業事業場の工場建屋内で、構内協力会社労働者1名がトラクター・ショベルを運転し、原料をホッパーに供給する通常作業を行っていた。災害発生時、当該工場で建設工事を請負う一次下請け事業場の労働者2名が、ヤード内設備工事のためヤード内に入った際に、後から入った被災者がトラクター・ショベルの後方を通り作業箇所に向かったため、被災者に	141	7	1～9

			気が付かず後進したトラクター・ショベルに轢かれた。			
2022	4	14 ～ 16	天井クレーンのクレーンガーダ上で作業員3名が点検作業中、トラス状のクレーンガーダ下にある運転室にいた運転手が、直接視認できない場所にいた当該作業員3名にクレーンを走行させる旨声をかけ、クレーンを走行させたところ、ガーダ上歩道に立っていた被災者が、斜めにせり出した建物梁と歩道手すりとの間に胸部をはさまれたもの。	211	7	50～ 99
2022	5	16 ～ 18	秤量機の撤去のため、高さ3.2mの架台上で架設通路を取り外す作業中、架台の小梁に足をかけたところ、小梁と架設通路を固定するボルトが外されていたため小梁が外れ、コンクリート床面に墜落した。小梁と架設通路はボルトにより接合した構造であるが、災害発生時は解体のためボルトを外した状態であり、被災者が足をかけた個所は、小梁と架設通路が摩擦によりかろうじて固定されている状態であった。	418	1	1～9
2022	6	10 ～ 12	バイオマス発電所発電プラントのF Aタンク内で燃焼灰の吸出し作業中、はしごの上から落下し、灰の中に埋没して窒息死したもの。	371	1	10～ 29
2022	7	14 ～ 16	当署管内の工事現場に向かうため、旧自社工場に全員が集合し、積載型トラッククレーン（資材の積込を行う：当該リース車）と軽ワゴン車（私用車）の2台（各2名が乗車）にて出発した。I Cから高速道路を使用し、途中休憩と昼食を取りながら、トンネル内を走行中、軽ワゴン車がトンネル内の側壁に激突し、助手席に乗車していた1名が死亡し、運転手の1名が負傷した。	231	17	1～9
2022	7	12 ～ 14	昇降路3階付近に停止したゴンドラ上にて、カウンターウエイト側ガイドレールの立設作業中、12階床レベル付近に設置した自重約100キログラムの揚重機（チルクライマー）が被災者の上に落下したもの。	219	4	1～9
2022	8	8 ～ 10	被災者は、発電所内の石炭灰貯蔵サイロの灰出し作業中、当該サイロ内のホッパー上に堆積した灰（約3メートル程度）の上に乗る、バキュームホースを用いて当該灰を吸い出していたところ、足元の状態が緩み、堆積灰の中に埋没したもの。	391	1	1～9

2022	8	8 ～ 10	機械の運搬作業中、機械の下にフォークリフトのフォークを入れる位置調整をしていた。被災者が機械とフォークリフトの間に入りフォークリフトの誘導をしていたところ、労働者Aが運転するフォークリフトが急発進し、フォークリフトと機械の間に挟まれた。	222	6	1～9
2022	9	10 ～ 12	外壁から出た配管の機密を保つため密封していた箇所（高さ3.31m）を切断して配管を継ぐため、当該配管の下にある自動販売機の雨除けの骨組み（高さ2.54m）と、八寸の脚立との間に渡した杉板（幅10.5cm、長さ2mの杉板を2枚並べたもの。脚立に固定していない。）の上で作業していたところ、切断した配管の内部がおよそ2.5気圧に加圧されており、噴き出した空気に吹き飛ばされて地面に墜落した。	411	1	1～9
2022	10	12 ～ 14	電線移設作業を行っていた被災者が、建物1階の施錠された正面玄関を開けようとしている所を大学職員に発見された。発見時に被災者の意識が朦朧としており、緊急搬送された。その後、容体が悪化し死亡が確認された。	371	1	1～9
2022	10	10 ～ 12	製鉄工場構内にて、元請事業場からコークス工場内に設置された設備の修繕のため、部品の取替え作業を請け負い、同作業のため、手持ち式金属切断機を用いてボルトを切断していたところ、切断したボルト1本を混炭機内に落としてしまったことから、ボルトの回収のため、被災者のうち1名が同機内に入ったところ倒れ、当該被災者を救出のため近づいた職長も同機内で倒れ、被災したものの。	391	12	10～ 29
2022	10	10 ～ 12	製鉄工場構内にて、元請事業場からコークス工場内に設置された設備の修繕のため、部品の取替え作業を請け負い、同作業のため、手持ち式金属切断機を用いてボルトを切断していたところ、切断したボルト1本を混炭機内に落としてしまったことから、ボルトの回収のため、被災者のうち1名が同機内に入ったところ倒れ、当該被災者を救出のため近づいた職長も同機内で倒れ、被災したものの。	391	12	10～ 29
		16	被災者は、個人住宅の2階屋根に設置されている太陽熱パネルの点検作業を終え、地面から高さ4.6mの屋根上からはしごを用いて降りていたと			

2021	4	～	ころ、何らかの理由により墜落し、敷地境界線のフェンスに激突した後に 18 当該フェンスから 1. 7 m 下のアスファルト舗装された地面に墜落したものの。被災者は、病院へ救急搬送され、後日死亡した。	371	1	10～ 29
2021	5	12 ～ 14	被災者は足場上で足場の解体作業を行っていた。被災時に解体していたのは足場本体から張り出したブラケット部に設置された足場板で、被災者は番線固定された足場板を取り外すため番線を切断した。その後、被災者は立ち位置を変えたが、足を置いた場所は自身が直前に番線を切断した足場板の端であったため、何ら固定されていない足場板は天秤状態となり、被災者は 9 m 下まで墜落し死亡した。墜落時保護帽、墜落制止用器具装備。	411	1	1～9
2021	6	10 ～ 12	貨物運搬用の索道の主索交換工事に従事していた被災者が、主索の張り具合の確認のため索道の支柱がある山林に立ち入り、確認作業終了後、索道の荷受け場まで戻ろうとしていた際に、高さ約 20 メートル、斜度 50 から 70 度の斜面を墜落し死亡したものの。	417	1	1～9
2021	9	18 ～ 20	新型コロナウイルス感染症による。被災者はガスタービン部品の分解と点検工事をするための準備作業に従事していたが、後日新型コロナウイルス感染症の陽性が判明した労働者と現場の事務所でミーティング及び現場における作業を行っていた。熱の症状が出たため、PCR 検査を受けたところ、陽性と判定され、自宅待機となったが、その後症状が悪化し、病院に入院したものの、後日、当該感染症による肺炎で死亡した。	911	90	30～ 49
2021	10	16 ～ 18	排水ポンプ吸込み弁（約 3. 5 t）のフランジにパッキンを取り付ける前 処理であるパッキンの当たり面の清掃作業において、吸込み弁の基礎に水 平に固縛してあった転倒防止用ベルトを外す必要があったため、吸込み弁 と反対側でベルトを締めていたレバブロックを取り外した後、被災者が 吸込み弁側に廻り込んだところ、吸込み弁が倒れ、下敷きとなったもの。	529	5	30～ 49
2021	11	10 ～ 12	荷物用油圧間接式エレベーターの更新工事において、3 階建屋側ドアの調整作業をエレベーター搬器上のフレーム枠に乗り行っていたところ、搬器横の開口部（1. 0 m×1. 5 m）からエレベーターピットまで約 16 m	214	1	1～9

			墜落した。			
2020	1	10 ～ 12	スクラップとするため岸壁上に移送、仮置きされた使用を廃止したアンローダの解体にあたり、被災者は、アンローダAフレーム頂部と接続されている後方ステーを取り外すため、後方ステーのAフレーム接続箇所付近をAフレーム頂部点検台上（高さ約40m）でガス溶断したところ、アンローダ前方カンチレバー部分が崩壊、Aフレームは前方カンチレバーと接続されており崩壊とともに折れ曲がり、被災者が投げ出され地上へ墜落した。	419	1	1～9
2020	1	22 ～ 24	被災者等は現在建築中の建屋内に設置する設備の架台等の設置作業を行っていた。被災者とは別の5名の労働者で作業を分担して床板（重量：約160kg）を床面から約20mまで天井クレーン（つり上げ荷重：40.9t）でつり上げている時に床板に取り付けていた2個のクランプのうち1個が外れ、その後、残りのクランプも外れて地上へ落下し、跳ねて飛来した床板が付近にいた被災者に激突した。	372	4	10～ 29
2020	3	20 ～ 22	「マンション敷地内に埋設されている「ディスポーザシステム」の「処理槽」周辺で異臭」とのことで点検依頼を受け、担当者2名が入場していた。修理を要することとなり、会社にいる上司と電話連絡を取りながら作業に当たっていたが、午後の通話を最後に連絡が取れなくなった。一夜明けても連絡が取れないため、会社からマンションの管理人へ確認要請したところ、同システムの機械室内で倒れている2名が発見されたもの。	391	12	30～ 49
2020	3	20 ～ 22	「マンション敷地内に埋設されている「ディスポーザシステム」の「処理槽」周辺で異臭」とのことで点検依頼を受け、担当者2名が入場していた。修理を要することとなり、会社にいる上司と電話連絡を取りながら作業に当たっていたが、午後の通話を最後に連絡が取れなくなった。一夜明けても連絡が取れないため、会社からマンションの管理人へ確認要請したところ、同システムの機械室内で倒れている2名が発見されたもの。	391	12	30～ 49
		14	工場の冷却塔設置工事において高さ約4メートルの冷却塔屋上より、緩衝材を外装版の間に詰める作業を行うにあたり、被災者は要求性能墜落制止			1000

2020	3	～	用器具を使用せずに屋上床面の端より身を乗り出して作業をし、バランス	419	1	～
		16	を崩し約4メートル下へ墜落した。大学付属病院に搬送され、入院加療中であつたが、後日死亡した。			9999
2020	4	～	フロンガスの移充填作業中に、フロンガスに含まれる液体を分離する装置	391	15	1～9
		18	(ヘッダー) が破裂し、被災者の頭部に激突したもの。			
2020	7	～	ごみ焼却場内で、設備に付帯する装置更新のため、作業員4人が搬入した	612	5	1～9
		10	製品(高さ1.31m、長さ1.8m、幅0.95m、重量約1.6t)の四隅に分かれ、複数のチェンブロックを用いて人力で製品をつり上げ			
		12	ながら水平に運搬した後、前後2台の台車(長さ0.75m、幅0.5m)に敷いた角材の上に降ろし、製品に掛けていた2本のチェンブロックのフックを全て外し終えた際、突然横向きに倒れた製品の下敷きとなつた。			
2020	8	8	屋内機械室において冷凍装置のメンテナンス作業中、隣接する建屋に部品	415	1	1～9
		～	を取りに行くため、その最短距離となるスレート屋根上に設置してある2			
		10	本の配管(幅25cm)の上を歩行していたところ、採光スレートを踏み抜き7.3m下のコンクリート床に墜落したものと推測される。スレート屋根には歩み板、防網等の設置はなく、被害者は保護帽及び墜落制止用器具を着用していなかった。			
2020	8	～	5階建てアパート(40世帯入居可)の屋上に太陽光パネルを設置するため、屋上(広さ約9m×約70m)で設置済みの架台に太陽光パネルの設置に必要な金具を取付ける作業を行っていた。屋上では代表者を含む4名	415	1	1～9
		16	が作業をしており、各々が取付け作業をしていたところ、被災者がいない			
		18	ことに気が付いた同僚が探したところ、約15m下の地上に墜落している被災者を発見した。墜落制止用器具の取付設備はなかった。			
2020	9	8	水産食料品を製造する工場内において、高温高圧殺菌用圧力容器の配管	417	2	1～9
		～	(塩ビ管、内径40mm)のうち、高さ2.25mの位置にある逆止弁の			
			取り替え作業を行っていたところ、心肺停止状態で床面に倒れているとこ			

		10	ろを発見されたもの。			
2020	9	8 ～ 10	工場建設現場において、小型ボイラーをハンドリフトに乗せて搬入作業中、搬入路上の段差を乗り越えるため、スピードローラー（ころ）に換えていたところ、当該小型ボイラーが転倒し、被災者に激突した。	611	6	10～ 29
2020	12	8 ～ 10	被災者はホッパー下部に堆積している残留微粉炭をバキュームホースで吸い出すため、縄梯子を使用してホッパー内部に下り、吸い出し作業を行っていた。その際、被災者が頭まで微粉炭に埋もれて、窒息により死亡したもの。	418	1	10～ 29
2019	4	8 ～ 10	高さ約2.4mの作業構台上で、作業員2名が仮溶接した搬出入用架台のクランプ止めした単管に安全帯のフックをかけ、玉掛用のシャックルを外す作業を行っていたところ、突然、移動式クレーンの補ジブが跳ね上がり、同架台も仮溶接部分が外れて跳ね上がった。被災者2名も、安全帯のフックがかかっていたため同架台とともに跳ね上がり、移動式クレーンの主ジブに激突した。その衝撃で単管が外れ、2名は地上に墜落し、死亡した。	212	1	10～ 29
2019	4	8 ～ 10	高さ約2.4mの作業構台上で、作業員2名が仮溶接した搬出入用架台のクランプ止めした単管に安全帯のフックをかけ、玉掛用のシャックルを外す作業を行っていたところ、突然、移動式クレーンの補ジブが跳ね上がり、同架台も仮溶接部分が外れて跳ね上がった。被災者2名も、安全帯のフックがかかっていたため同架台とともに跳ね上がり、移動式クレーンの主ジブに激突した。その衝撃で単管が外れ、2名は地上に墜落し、死亡した。	212	1	10～ 29
2019	5	14 ～ 16	高さ約4メートルの足場上で階上の機器の架台補強工事で使用した養生シートの片づけ作業中、足場から床面へ下りようと移動中に足を滑らせて転落し、頸椎骨折により死亡したもの。	411	1	1～9
2019	5	0 ～ 2	朝、社屋2階の事務所に通じる外階段の最上部の踊り場の5.5メートル下の地面に倒れているのを発見された。警備記録と通勤車の状況から、前日の夜に帰社（解錠）し、1時間後に施錠して帰宅しかけたが何かの理由で戻った際、状況は不明だが当該踊り場の手すり（高さ1.1m、中さん	413	1	10～ 29

			3本)を越えて落ちたと推測。			
2019	6	16 ～ 18	自社の倉庫内に鉄骨造の中二階を設ける作業中、鉄骨製の柱2本と梁を組み立てた門形の部材を壁に立てかけ、これにフォークリフトを使用して持ち上げた別の梁をボルトで固定しようとしていたところ、門形の部材が倒れ、被災者の頭部に激突した。	418	5	1～9
2019	7	8 ～ 10	被災者は、災害発生場所の事業場で廃棄するプレスブレーキを搬出するため、壁に立てて置いてあったプレスブレーキをジャッキアップし、枕木の下に置きジャッキを下げたところ、プレスブレーキがジャッキ操作をしていた被災者の方向に倒れ、下敷きとなり、救出後病院に搬送されたが、搬送先で死亡が確認されたもの。	612	5	1～9
2019	9	4 ～ 6	午前、火力発電所において、水質計測機の警報が鳴ったため、被災者1人でボイラーの排ガスを処理する排水処理装置を確認しに行った。その後、被災者が戻らないため、現場確認したところ、装置の一角のグレーチング2枚のうち1枚（重さ約23キロ）が外されている状況がわかり、水を抜き、装置内を捜索したところ、被災者を発見。救急搬送したが、死亡が確認されたもの。	414	10	100 ～ 299
2019	11	6 ～ 8	トンネル出入口付近において、軽トラックと中型トラック、軽自動車の3台が関係する交通事故。軽トラックを運転していた被災者は、センターラインをはみ出し、中型トラックと接触後、トンネル左壁に衝突し横転、その後中型トラックの後方を走行していた軽自動車と衝突した。	231	17	1～9
2018	1	14 ～ 15	製鋼所内の溶鉱炉ヘスクラップ等を投入するバケットコンベヤの解体工事において、被災者は高さ約16mの作業床上で操作盤等の配線を撤去する作業を1人で行っていたところ、バケットコンベヤ撤去後に生じた1辺約130cmの開口部から墜落して死亡したものである。開口部は鉄板で養生する予定となっていたものであるが事故時は養生されていなかった。	414	1	10～ 29
2018	2	18 ～	事業所内の設備工事（塗装工事）を終えた被災者が、同事業所の浴場で入浴していたところ、うつぶせで浴槽内に浮いた状態で発見されたもの。救出時心配停止状態であったが救急病院にて一時心肺蘇生したもの同日深夜	921	10	100 ～



		19	心停止死亡。			299
2018	4	14 ～ 15	機械用の空調機ユニット（高さ257×縦382×横160cm、重さ2.9t）を台車（縦50.5×横70.5cm）2個を用い、4人で押して運搬中、押し作業に従事せず、監督員として手元で誘導作業をしていた被災者の方向に同空調機ユニットが倒れ、下敷きになり死亡したもの。	612	5	50～ 99
2018	5	16 ～ 17	事業所の定修工事において、被災者は、プラント装置の洗浄を行っていた。作業終了後、防毒マスクを外し、合羽等を脱いだところ、目、首、上半身等が真っ赤になっていた。病院に搬送され、入院。熱傷性ショックの疑いで死亡した。司法解剖の結果、直接死因の原因は化学熱傷と診断された。	514	12	30～ 49
2018	5	20 ～ 21	係留中のパナマ船籍の貨物船内において、コンテナ内の温度管理に従事する労働者が、コンテナ受け木の整理のためにかがんで作業を行っていたところ、後退してきたトレーラーと船内の柱との間にはさまれたもの。	221	6	50～ 99
2018	6	22 ～ 23	被災者は、退勤後から行方不明となっていたが、工場の敷地内にある水門の外側で浮かんでいるのを発見された。	362	10	10～ 29
2018	7	16 ～ 17	請け負った冷蔵室の扉取付け工事が終了後、脚立の真下で倒れている被災者を同僚が発見。後日脳挫傷により搬送先の病院で死亡した。被災者は、脚立の下で屈んで施工箇所の最終チェックをした後、立ち上がろうとしたとき、後頭部を脚立の脚の角度を保つための金具に激突した弾みで、コンクリート製の床面に倒れ、顔面を強打したもの。保護帽未着用。	417	2	1～9
2018	8	12 ～ 13	工場内に設置された電動機のメンテナンス作業を行うに当たって、天井梁部分からチェーンブロックを用いてH鋼（レール）をつり、当該H鋼につり装置（チェーンブロックを取り付けたギヤードトロリー）を取り付け、当該装置で電動機の冷却器をつり、移動させていたところ、当該つり装置がレール端で止まらず、荷の前方にいた被災者に落下した。被災者は、荷に激突するとともに右大腿部が荷の下敷きとなった。	361	4	10～ 29

2018	9	16 ～ 17	ガソリンスタンドにおいて、2トンドンプトラックに給油を終えて、事業場の作業場に戻るため国道を北進し、トンネルに入ったところ、濡れている路面でスリップし、左後輪が縁石にぶつかり、その反動で対向車線にはみ出して大型トラックと正面衝突し死亡した。	221	17	10～ 29
2018	9	16 ～ 17	マシニングセンターその他設備の更新のため、当該設備を含め15台の設備を搬出する工事に際し、災害発生に係るマシニングセンターの搬出には下部のクーラントタンクを本体に固定する必要が生じたことから、固定用のブラケットを取り付けるスペースを確保するため、本体前面に設置されていた搬送コンベアを本体から切り離して移動させていたところ、搬送コンベアが転倒し、その下敷きとなった被災者が外傷性脳挫傷により死亡した。	612	6	10～ 29
2018	10	14 ～ 15	酸化マグネシウム及び水素の製造設備（反応塔）内に原料のマグネシウム片及び着火剤の水素化マグネシウムを投入後、水蒸気を供給することで燃焼反応させていたところ、反応塔が爆発し、付近にいた労働者が死亡した。	513	14	1～9
2018	10	8 ～ 9	精錬工場の定期修繕工事において、スクリーコンベアのスクリー交換の前処理として同コンベアのホッパー内の異物除去作業を行っていたところ、同コンベアが起動してスクリーに巻き込まれたもの。	224	7	1～9
2018	10	10 ～ 11	高さ4.5mの天井の照明器具取替工事において、高さ2.6mの脚立を用い作業を行っていた。被災者が脚立から降りようとしたところ、下から7段目の高さ2.1mの箇所ですを踏み外し墜落、頭部を負傷した。ヘルメットは着用していたが、墜落時に壁と接触した際に外れたもの。安全帯は着用していたが、使用していなかった。入院後、死亡したもの。	371	1	1～9
2018	10	22 ～ 23	会社所有のトラックに労働者4名を乗せ、工事現場から当該会社へ帰社途中、高速道路を走行途中で被災者が用を足したくなったためトラックを路肩に停車したところ、被災者が降車した際に後方から走行してきた乗用車に跳ねられ脳挫傷により死亡した。	221	17	1～9
			工場内施設協力会駐車場において、駐車場に並列して駐車してあった高所			

2018	11	16 ～ 17	作業車の助手席側前方アウトリガー付近とトラッククレーンの運転席側の側面との間に被災者が胸部を挟まれ意識を失っているところを仕事が終わりに駐車場に立ち寄った作業員が発見した。	212	7	30～ 49
2017	1	6 ～ 7	軽ワゴン車に4名が乗車し、住居から建設工事現場に向かっていたところ、国道で軽ワゴン車が道路左側のガイドパイプ突き破って約9.5メートル下の市道に転落し大破した。運転者1名が死亡、その他3名の同乗者も負傷。	231	17	1～9
2017	2	12 ～ 13	下水道浄化施設の水处理機械設備の設置工事現場において、5－返送汚泥流入可動堰開閉器架台上で、開閉器スピンドルカバーに文字を記入している際に、昼食の時間となったため作業を中断し、開閉器架台上から後側にある点検用の開口部（縦105cm、横107cm）に設置している合成木材製蓋の2枚のうち1枚（縦60cm、横107cm）の上に降りたところ、蓋と一緒に約7m下のコンクリート地下面に落下した。	414	1	1～9
2017	3	6 ～ 7	被災者は、夜間工事終了後、現場前の路上（片側三車線の歩道寄）に停車させた社用車の後部ドアを開けた状態で、積み込んだ物品の個数確認をしていたところ、後方から走行してきた軽トラックに轢かれ、病院に搬送されたものの、びまん性脳損傷により、死亡した。	221	17	10～ 29
2017	4	8 ～ 9	被災者は、圧延機の補修のため、予め圧延機付属の油圧ユニットにて上昇させてあったアイロニングロール及び架台（ロックピン付）の下部で準備作業を行っていたところ、請負関係にない他事業場の労働者が、当該油圧ユニットの油圧ホースを交換しようと抜いたことで、アイロニングロールと架台（総重量約2.35トン）が急降下し、被災者は、その下敷きとなった。ロックピン固定用のボルトは、重量に耐え切れず破断した。	163	4	1～9
2017	4	8 ～ 9	被災者は工場内岸壁付近で移動式クレーン（60t）を後退させたところ、左後輪が岸壁外側へ脱輪し、被災者が乗車した状態で下方の海に転落した。被災者は病院に搬送され、死亡が確認された。岸壁部分はコンクリート構造の段差があり、被災者が脱輪時に付近の作業者に「コンクリー	212	1	30～ 49

			トを見間違えた」と申し立てていることから、上段と下段のコンクリート面を同じ平面と勘違いし脱輪したものと推測される。			
2017	4	10 ～ 11	被災者は、他の作業員とともに単管とクランプを使用してため池上に設置された仮設ステージのクランプを調整していたが、他の作業員が一時的に現場を離れ、再び戻ったところ被災者の姿が見えず、保護帽が浮いていることを不審に思い付近を探したところ、ため池に沈んでいる被災者を発見した。	713	10	1～9
2017	4	8 ～ 9	ドラグ・ショベルが路肩を踏み外したため調整池に転落し、オペレーターが死亡した。	142	1	30～ 49
2017	5	16 ～ 17	被災者が横円筒形の大型管を支える台座の中にあるオイルパンの拭き取り作業を終えたところ、被災者の後方に置かれていたウエスに引火した炎がオイルパンに向かって走り、その通り道にいた被災者に燃え移り、火傷のため入院していた被災者が死亡した。	999	16	1～9
2017	6	0 ～ 1	構内にある重油直接脱硫装置の触媒の交換工事現場で、被災者は同僚1名とともに反応器内に入り廃触媒の排出作業に従事していた。被災者はバキュームホースによる吸い出し作業を行い、同僚はエアピックで固まった触媒をほぐす作業を行っていたところ、しゃがんだ姿勢で作業を行っていた被災者が触媒の塊の下敷きとなった。	169	5	50～ 99
2017	9	16 ～ 17	ボール盤（高さ236センチメートル、重さ850kg）の移設ため、3個のチルローラー（35×23センチメートル、耐荷重3t、ボール盤前方1箇所、後方2箇所）に載せ、4名の労働者で押して移動させていたところ、ボール盤が突然転倒し、被災者の頭部に激突した。被災者はボール盤の下敷きにはなっておらず、救急搬送されたが、頭部を強く打ったため死亡した。	611	6	100 ～ 299
		13	つり上げ荷重25トンのホイールクレーンを用いて荷（ロール状のコンベアベルト：重量約6トン）をトラックの荷台に積込む作業において、トラックの荷台上15cmの位置で荷を静止させた時、玉掛けに使用してい			10～

2016	2	～ 14	た繊維ベルト 2 本の内 1 本が切断した為、荷は一旦荷台に落下した後、90 c m 下の地面に落下した。その際、荷下ろし作業のため荷台上で荷の近くにいた被災者に荷が激突し、被災者も地面に転落した。	372	4	29
2016	3	～ 10	機械加工実習室に搬入した旋盤（約 1. 5 t）を被災者を含む作業員 2 名で油圧ジャッキを使用して設置作業中、ジャッキ上に載っていた旋盤を台木上に載せるため、台木を旋盤下に置きジャッキダウンを行ったところ、旋盤が傾き横転し、被災者が旋盤の下敷きとなった。なお、被災者は救急搬送により病院に搬送されたが、死亡した。	151	6	1～9
2016	5	～ 10	隣のプラントで運転業務を行っていた構内下請事業場の労働者が物音に気づき確認したところ、被災者が地面に横たわっていた。被災者は工事開始前に先立ち、下請けとの打ち合わせをするにあたって現場の状況等の確認をしていたところ、サイロの上のコンベアの点検歩道付近より地上に墜落した。	418	1	30～ 49
2016	6	20 ～ 21	現場である発注者のラック倉庫で、夜間で完了予定のスタックークレーン（つり上げ荷重 5. 25 t）のケーブル交換工事において、被災者以外の作業員が運転席・フォークと共に高所に配置し、地上で被災者が上から下ろされるケーブルの長さ確認をする作業中、運転者がクレーンを約 1 m 前進させた際に地上を確認したところ、被災者が柱とクレーン制御盤の間約 13 c m のすき間に挟まれていた。	211	7	1～9
2016	7	9 ～ 10	ボイラーの定期点検中、蒸気ドラム（直径約 1. 6 m、長さ約 7. 2 m）内の状況を確認するため、当該蒸気ドラムのマンホール（直径 38 c m）を開放したところ、内部に吸い込まれた。	311	3	10～ 29
2016	8	16 ～ 17	労働者 2 名が、工場内にある縦長で円柱状のタンク（直径：1. 0 m、高さ約 2. 5 m、上部マンホールの直径：0. 4 m）の中に交互に入り、内側のゴムライニングの点検、及びトルエンを用いた補修作業を行っていた。補修作業開始から約 4 時間後、被災者 2 名がタンク内で倒れているところを発見された。（1 名は死亡、1 名は休業見込み 8 か月）	514	12	1～9

2016	9	14 ～ 15	大型切断機の解体作業中、落下してきた機械部品（クラッチケース、重量約 1. 5 t）の下敷きになり、死亡した。	156	4	30～ 49
2016	10	14 ～ 15	被災者は、太陽光パネルの設置工事において、二階建て建物の屋根に上 がって作業を行っていたところ、屋根から約 7 メートル下のアスファル ト舗装された駐車場に墜落した。	415	1	10～ 29
2016	10	19 ～ 20	精米器の更新のため本社から 10 名が来ていた。当日の作業を終えて退出 する際、客先の工場機械室入口のシャッターが閉まらなくなった。当該事 業場の労働者がフォークリフト（最大荷重 1. 8 トン）のフォークにパ レット 6 枚（高さ 86 cm）を積み重ねて上に 2 人が乗ると、高さ約 3. 5 m の箇所で被災者はバールを使用して修理をし、もう一人は状況を見て いた。このとき被災者がバランスを崩して地上に転落した。	222	1	10～ 29
2016	12	12 ～ 13	水深約 56 m の海底に設置された海象観測装置の保守管理のため、小型船 に積んだ混合ガスボンベからホースにより吸気を受けた被災者が、午前 1 1 時 48 分に潜水を開始し、午前 11 時 51 分頃に水深約 56 m まで到達 した。被災者は午前 11 時 59 分頃まで、前日に交換した防蝕板の写真撮 影作業を行い、浮上を開始したが、水深 24 m 付近まで到達した際、自発 呼吸をしなくなり、救出をするも死亡が確認された。	713	10	1～9
2015	5	9 ～ 10	工作機械を設置するため当該機械をトレーラーの荷台に載せ工場に搬入し ていた。当該機械の置き場所を調整するため一度工場内に入れたトレー ラーを外に出そうとしたとき、当該機械の上にいた被災者が工場の入り口 上部と当該機械に挟まれた。	221	7	10～ 29
2015	3	10 ～ 11	碎石工場のプラントの修理作業を行っていた労働者 1 名が首の骨を折って 死亡したもの。プラントの鉄板にクランプ取付け、チェンブロックにて コンベアのシュート（重量 1. 1 トン）を吊り上げていたが、クランプご と抜け落下し、下部で作業を行っていた被災者が被災した。	379	4	1～9
		10	某センター内の倉庫前において、トラックで搬入されたバグフィルター （円筒形、高さ 228 cm、直径 150 cm）をフォークリフト（最大荷			

2015	6	～	重3. 0 t) で積み下ろすときに、バグフィルターをパレットごと持ち上げ後退した時に、バグフィルターがパレットから落下し、近くで誘導していた被災者に激突したものの。	222	4	50～ 99
2015	12	15 ～ 16	製造業の工場B 1, 2号炉解体工事で解体された廃材を15トントラックに積み込み、自社資材置場に移動した。自社資材置場において、解体用つかみ機を使用して、廃材(重量: 900kg)の荷卸し作業中、当該つかみ機で廃材を斜めに立てて、一旦運転席から降り、廃材の下方についていたシャックル等を取り外そうと、廃材の下に入ったところ、つかみ具の先端の爪から廃材が外れ、下敷きになったもの。	145	4	10～ 29
2015	5	～	14 発電所において、復水器の残水処理のため内部で作業していた際に転倒した。被災者が頭を打ち、吐き気を訴えたため、市内の病院へ搬送し、入院加療を行っていたが、平成27年5月30日に死亡した。	391	2	10～ 29
2015	3	～	14 被災者が自動車で現場内に仮設された作業用道路を移動中、崖下の雑木林に転落し、車と地面との間に挟まれたもの。道路から転落した箇所までは約10メートルであった。	417	1	1～9
2015	3	～	9 天井クレーンの修繕工事において、クラブトロリの脇で修繕箇所の動作確認をしていた被災者が、横行したクラブトロリの給電用ブラケットとガード上の給電レール支持箇所との間に胸部をはさまれたもの。	211	7	10～ 29
2015	7	～	11 移動式クレーンにて、解体されたコンベヤーの鉄骨架台をつり上げている途中、何らかの理由により被災者が鉄骨架台の下に立ち入ったところ、玉掛用具の繊維ベルトが切断し、鉄骨架台が落下し被災者に激突したものの。	372	4	1～9
2015	1	0 ～ 1	汚水槽(以下「槽」という。)内に水位計を設置するにあたり、水位計保護管の架台据付作業を行う事前準備として、槽から汚水を抜くための仮設ポンプを槽の上部より搬入することとした。槽内で2名にて仮設ポンプを受取るため、最初に梯子から降りた被災者が槽内のスロープに足を滑らせて水中に落下、槽の底に沈んだ状態で見つかり、搬送先の病院で溺死による死亡が確認された。	713	10	10～ 29

2015	4	11 ～ 12	食品工場の放冷室内において、冷却設備の取り替え工事のため、アセチレンガス溶接による銅配管の接続（ロウ付け）作業が行われていたとき、工場が火災となったもの。この火災により同作業に従事していた4名（1次下請け労働者2名、2次下請け代表者及び労働者1名）が死亡した。当時、工場は休みであり、工事全体のうち工場内では死亡の4名だけが作業を行っていたもの。	331	16	10～ 29
2015	8	14 ～ 15	被災者は、L N Gタンク建設工事現場において、底板の溶接作業に従事していた。同時刻、タンク内の高さ4 4. 2 mの足場上では、他の事業場の労働者が吊りピース（7. 6 k g）を屋根の梁に溶接する作業を行っていた。この作業は、吊りピースを持つ者とその反対側から溶接する者の2人作業であるが、吊りピースを持っていた者が何らかの原因により感電し、吊りピースを落としてしまい、吊りピースが被災者の背部に当たったもの。	521	4	50～ 99
2015	1	14 ～ 15	ごみ処理施設建設工事現場のエネルギー回収推進施設の3階にある電気関係の主幹制御室に台車に載せた制御盤（高さ2. 3 5 m×幅1. 2 m×奥行0. 8 m、重量3 5 0 k g）を労働者4名で台車から降ろす作業中、制御盤が転倒してその下敷きとなった。	611	6	10～ 29
2015	4	11 ～ 12	食品工場の放冷室内において、冷却設備の取り替え工事のため、アセチレンガス溶接による銅配管の接続（ロウ付け）作業が行われていたとき、工場が火災となったもの。この火災により同作業に従事していた4名（1次下請け労働者2名、2次下請け代表者及び労働者1名）が死亡した。当時、工場は休みであり、工事全体のうち工場内では死亡の4名だけが作業を行っていたもの。	331	16	1～9
2015	10	11 ～ 12	被災者は、倒産したもやし工場を購入予定の顧客とともに工場内の水回りの点検作業を行っていた。水回りの確認を行うため通路上（高さ約3. 0 m 床材：エキスパンドメタル）を歩行中、床材（約0. 9 m×約0. 6 m）ごと約3. 0 m墜落し被災したもの。	417	1	10～ 29
			食品工場の放冷室内において、冷却設備の取り替え工事のため、アセチレ			



2015	4	11 ～ 12	ンガス溶接による銅配管の接続（ロウ付け）作業が行われていたとき、工場が火災となったもの。この火災により同作業に従事していた4名（1次下請け労働者2名、2次下請け代表者及び労働者1名）が死亡した。当時、工場は休みであり、工事全体のうち工場内では死亡の4名だけが作業を行っていたもの。	331	16	10～ 29
2015	6	11 ～ 12	回転炉の移設工事において、排気ダクトの解体作業を行っていた際、ダクトを移動式クレーン（つり上げ荷重50トン）で玉掛けし、保持した状態で、移動はしごに労働者Aが上り、ガス溶断により、壁面からダクトを固定していたステーの切り離しを行ったところ、ダクト中間部辺りの接合面（フランジ）のボルトが破断し、ダクトが中折れ、落下し、労働者A、Bに激突した。（A：重傷、B：脳挫傷により約31時間後に死亡）	212	4	1～9
2015	9	9 ～ 10	太陽光発電設備設置工事の準備のため、屋根上で材料の運搬をしていたところ、被災者が明かり取り用の窓を踏み抜き、8メートル下のコンクリート地面に墜落し、死亡したもの。	415	1	1～9
2014	1	13 ～ 14	脱臭用活性炭容器（7.9トン）の設置作業を移動式クレーンを用いて行っていたところ、単管パイプ上で位置調整の作業を行っていた被災者側に、吊っていた当該容器が振れ、高さ約3.5m下に墜落した。	212	1	1～9
2014	1	10 ～ 11	被災者2名は、現場内の地下にて、機械式立体駐車設備（3層）の下段パレット（車を載せる台）上で停止位置の確認作業をしていたところ、頭上から落下してきた上段パレット（約900kg）に押しつぶされ、死亡した。	391	4	10～ 29
2014	1	10 ～ 11	被災者2名は、現場内の地下にて、機械式立体駐車設備（3層）の下段パレット（車を載せる台）上で停止位置の確認作業をしていたところ、頭上から落下してきた上段パレット（約900kg）に押しつぶされ、死亡した。	391	4	10～ 29
2014	2	9 ～	資材の荷卸作業中、トラックの荷台の奥から後部荷卸口までの積荷の引き寄せに使用するためトラックの後方に後ろ向きに停車させていた積載形トラッククレーンを、引き寄せが終了したため前進させようとしたところ、	212	7	10～

		10	運転者が運転操作を誤り後進させてしまったため、トラックと当該クレーンとの間にいた被災者が双方の荷台後部に挟まれた。			29
2014	2	15 ～ 16	終末処理場内の最終沈殿池に設置されているスカムスキマー（あく取り機）の整備のため、つり足場を設置した。整備終了後、当該足場を解体し、スラブ上に2名で移動させ置いたところ、部材が沈殿池上に飛び出す位置であったことから、被災者が位置を直そうと引き寄せたところ、バランスを崩し沈殿池の開口部から4.8m下に墜落した。	414	1	1～9
2014	3	14 ～ 15	設備を事業場建屋内に移設仮置きする作業中、建屋に設置されていたクラブトロリ式天井クレーンを無線機にて操作し、荷を取りに向かうため、クレーンの走行及び横行の操作を行っていたところ、クラブ横行車輪が横行ストッパーに当たり、衝撃でストッパーが脱落し、落下。被災者の頭部に当たり、死亡した。	211	4	10～ 29
2014	4	17 ～ 18	ガス溶断にて、スクラップバケットの解体中、円柱状の同バケットの一部が倒れ、被災者が付近にあった鉄製のかごとの間に挟まれた。	391	5	1～9
2014	4	6 ～ 7	駐車中の車両に向かって歩いていたところ、構内幹線道路にて、走行中の車両と接触した。	231	18	1～9
2014	5	13 ～ 14	自動車整備工場の塗装ブース設置工事にて、被災者は、屋根の端に立ち、ダクトの部品を屋根に上げ、ダクトの取付場所に向かい歩み、板及びトタンの上を通行していたところ、転倒し、トタンの横のスレートを踏み抜き、墜落した。	415	1	1～9
2014	5	23 ～ 24	ベッドで寝ていた際、キッチン付近の床にコンセントから延長コードを這わせ、冷蔵庫と電気釜、電子レンジの電源として利用していたところ、延長コードが過熱し、発火。火事となり、焼死した。	351	16	10～ 29
		15	大型設備分解整備作業中、天井クレーンの走行方向の安全装置（近接防止装置）の故障、誤作動により、走行の操作が不能となり、被災者が天井ク			10～

2014	6	～	レーン脇の建屋歩道からクレーン走行サドル部分の安全装置の点検を行ったところ、走行動作をしたクレーンと歩道手すり補強材に頭部を挟まれた。	211	7	29
2014	8	～	6 社有車で国道を走行中、対向車線にはみ出し、対向してきたトラックと正面衝突した。運転していた被災者が死亡し、助手席と対向車の運転手が負傷した。	231	17	1～9
2014	9	～	9 プレス機械を移設する際、被災者と同僚の2名で深さ0.5mのピット内にて、プレス機械のジャッキアップ中にプレス機械が倒れ、下敷きになった。	154	6	10～29
2014	9	～	10 建設工事現場にて、衣服の汚れを圧縮空気で落としていたところ、体内に圧縮空気が入り、その後病院に運ばれたが、死亡した。	391	90	10～29
2014	11	～	7 高所作業車を運転し、クレーンガーダに接近し、被災者が高所作業車のバケットからクレーンガーダ上に上がり、ガーダ上で玉掛け位置まで移動しようとしたところ、地面に墜落した。	211	1	10～29
2014	12	～	6 軽自動車で建設工事現場に向かった際、凍結した路面でスリップし、対向車線にはみ出し、対向してきたトラックと衝突した。	231	17	10～29
2013	11	～	9 太陽光パネル設置工事において、屋根上で作業を行っていた被災者は、明り取り用のガラス窓を踏み抜き、約9m下の倉庫内コンクリート路面に墜落した。	415	1	1～9
2013	8	～	11 4トントラックから荷卸し作業中、重さ約600キロのキャスター付の加工機械が荷台から落下し、地上で作業していた被災者の頭部に激突した。	612	4	10～29
2013	4	～	13 被災者は、大型エアコンの熱交換器の取り替え工事を行っていた。工事を終え片付け作業中、地下ピットに置いたあった空のポリタンクをロープで引き上げるため、1階で1階フロアのグレーチング1枚（約60kg）を	414	1	1～9

			外そうとして、約 6 m下の地下ピットに転落した。			
2013	5	10 ～ 11	石炭火力発電所構内で発電ボイラーの定期補修作業に従事していた被災者は、補修に伴い開口部となった石炭搬送用シュート（鋼製の管）上部から、同シュート下部まで約 1 6メートル転落し、全身を強打した。	418	1	1～9
2013	7	10 ～ 11	高さ約 4. 2メートルの底の端に設置されている冷蔵庫の室外機について、冷媒の充填作業を行っていたところ、誤って墜落した。	415	1	1～9
2013	8	16 ～ 17	被災者は、太陽光発電設備設置工事において、他の下請け事業場を含む作業員 6 人 1 組により屋外に設置された太陽光パネルの取り付け状況の確認作業を行っていたところ、体調不良を起こし、救急搬送され治療を受けていたが、熱中症（熱射病）により死亡した。	715	11	1～9
2013	3	9 ～ 10	2階建て民家の太陽光パネル設置工事現場において、被災者が太陽光パネル取付用の金属製支持瓦を設置するため、ひさし付近の屋根瓦を取り外していたところ、何らかの理由で約 6 m墜落した。	415	1	1～9
2013	8	17 ～ 18	フィルム延伸の連続した機械のうち、巻取機と呼ばれる機械の紙切部（高さ約 2. 2 m、幅約 2. 4 m、重量約 4 t）を仮設置する作業中、被災者が紙切部の下へ東側から腹這い状態で潜り込み、紙切部の両側のフレームを繋ぐ梁の下面に手動の油圧ジャッキを設置し、ジャッキを操作して紙切部を持ち上げようとしたところ、紙切部がバランスを崩して東側に倒れ、被災者は床と紙切部に取り付けられたロールに両大腿部をはさまれた。	612	5	10～ 29
2013	6	9 ～ 10	被災者は、化学工場内で電気炉設備に関連した測定機器の計装作業を行っていたところ、電気炉本体内の圧力が急激に上昇し、電気炉本体と原料投入口の繋ぎ目から吹き出した火炎を伴った熱風が、防護壁の無い場所で作業を行っていた被災者を吹き抜け、重度の全身熱傷を負った。	341	11	30～ 49
2013	10	13 ～ 14	機械設備交換工事の準備作業（足場組立作業）を終え、市内の会社へ戻るため、同僚が運転する小型貨物自動車（会社所有のバン）に乗車し走行中、道路左側のガードレールに衝突、後部座席に乗車していた被災者が死亡した。	231	17	10～ 29

2013	2	11 ～ 12	事業場内で製品であるコンベアフレームを製作中、被災者は、作業台から高さ約1.6mの場所にあるコンベアフレーム上部に穴を開けるため、脚立を使い約1.6mのコンベアフレーム上部に足をかけたところ、コンベアフレームが傾き、転落した。	521	1	1～9
2013	6	16 ～ 17	作業現場の近くを通った第三者が、路上に倒れている意識のない状態の被災者を発見し、救急車を要請。病院にて経過を見ていたが、後日死亡した。被災者の作業は、電柱に街灯を設置する作業であり、電柱への昇降設備として脚立を伸ばした状態で、下方を電柱に固定し使用している。単独作業であり被災時の状況を確認した者はいないが、作業中に高所より墜落（額を裂傷、顎を骨折、）したと推測される。	371	1	1～9
2012	9	14 ～ 15	熱交換器（縦約150cm、横約60cm、重量約680kg）を台車2台に乗せ、労働者2名で撤去作業を行っていたところ、当該熱交換器が被災者側に倒れ下敷きになり、熱交換器の突起部分が被災者の左胸に刺さった。	612	5	10～ 29
2012	9	16 ～ 17	工場の新築工事現場で、天井クレーンのレールの取付作業を行っていた際、被災者はレールを取り付けるため組立中の足場上を移動していたところ、足場調整枠の足場板設置前の開口部から約10m下の地面に墜落した。	411	1	1～9
2012	1	16 ～ 17	被災者はセメントを搬送するバケットコンベアーのモーター部のチェーンが切れ、ピット及びバケットコンベアー内の下部にセメントが溜まっていることを確認した。そのため、被災者が点検口からバケットコンベアー内に入り溜まっているセメントの除去作業中、バケットと側壁の間（約15cm）に胸部を挟まれ、窒息死した。	224	7	1～9
2012	9	9 ～ 10	ボイラー室内の配管を取り替える工事において、被災者と他1名で銅製の既存配管を切断する作業を行っていた。被災者は、貯湯槽上で電動式の可搬式グラインダを用いて配管を切っていたところ、配管上に倒れ込んだ。	153	13	10～ 29
2012	5	8 ～ 9	被災者は2階屋上に設けられた機械室の屋上（高さ3.7m）においてクレーンの誘導作業を行っていたが、2階屋上に倒れた状態で発見された。	418	1	10～ 29

2012	3	13 ～ 14	被災者は当該建設現場内に設置された工事用エレベーターの調整作業を行っていた。被災者がピット内に残り、同僚が搬器上でエレベーターを操作し、搬器を上昇させたところ、被災者は下降してきたカウンターウェイトと鉄骨梁に腹部を挟まれ死亡した。	214	7	100 ～ 299
2012	4	14 ～ 15	除塵機にレーキ（鉄製の先端が櫛状になった部品）を取り付ける作業中、沈砂池ポンプ棟地下1階にいる作業者がテルハを用いてレーキを降下させていた際、レーキが急激に加速し、同地下3階にある水路内のスクリーン（鉄製の格子状の板）裏にいた被災者がスクリーン開口部とレーキの間に頭部を挟まれた。	391	7	1～9
2012	4	11 ～ 12	工場屋根葺替え工事に伴うルーフファン取替え工事において、スレート葺屋根上で資材作業をしていた被災者は、スレート屋根を踏み抜き、約6m下のコンクリート床に墜落し、全身打撲で死亡した。	415	1	1～9
2012	5	10 ～ 11	鋼板葺き工場屋根上に太陽電池パネル（モジュール）を設置する工事において、屋根上に荷揚げしたモジュールを二人一組で運搬作業中、被災者は、誤って屋根上のアクリル製明り取り窓に乗ったため、明り取り窓が同人の体重により破損して約7 m下の工場床に墜落し、全身打撲により死亡した。	415	1	30～ 49
2012	4	5 ～ 6	被災者は工事現場に向かうため、トラックに乗車し高速道路を走行中、トラックの後輪タイヤが破裂し、蛇行した後車両が横転した。乗車は4名おり、後部座席に乗車していた被災者が死亡。他1名が休業、2名は不休であった。	221	17	10～ 29
2012	4	7 ～ 8	昇降機技術者である被災者は、自宅のベッドで意識を消失している状態で発見され、救急搬送先の病院で「急性心機能不全症」により死亡した。なお、被災者には死亡前6ヶ月前から、業務のため3～4時間/日の時間外労働、及び週休2日のうち1日の休日出勤が恒常化しており、死亡前1ヶ月間で100時間以上、同2ヶ月～5ヶ月前の各月に80時間以上/月の時間外労働が認められた。	921	90	100 ～ 299
			エレベーターの改修工事中、搬器上の配線作業の必要上搬器上部が3Fフ			

2012	3	13 ～ 14	ロアから約30センチ、搬器下部を2Fフロアから約1.5m上部にある状態で搬器を止めて3Fのフロア上の作業者と搬器上の作業者2名で同配線作業を行っていた際、2Fのフロアのエレベーター前で計器（押しボタン）の交換を行っていた作業者が、扉を約30cmほどあけた状態で固定したため、開口状態となった昇降路から墜落した。	214	1	1～9
2012	8	17 ～ 18	印刷機のラインを設置する工事現場において、ラインに付属する原版搬送装置の調整作業を単独で行っていた被災者は、当該装置のストロークする部分と当該装置付近のガイドローラーに頸部をはさまれ、救急搬送されたが、窒息により死亡した。	162	7	10～ 29
2012	9	14 ～ 15	精米機廃棄のための積み込み作業において、トラック荷台上で精米機を並べる作業中、当該精米機の脚部が荷台開口部にはまったことにより当該精米機が被災者側に倒れ込み、被災者は精米機とともに荷台から墜落、さらに、墜落した被災者の頭部に精米機が落下し、後頭部の粉碎骨折、脳ヘルニアにより死亡した。	612	4	1～9
2011	4	13 ～ 14	ビルのエレベーターの地下ピットにおいて、ワイヤーロープの取り換え作業を行っていた被災者がピット床に倒れていたもの。なお、事故発生の状況を現認したものはいないが、残された現場の状況から被災者が高さ2.43mのエレベーター乗降口からピット床までの間を昇降する際に墜落したものと考えられる。被災者は平成23年4月30日午前6時15分に死亡したもの。	371	1	10～ 29
2011	1	15 ～ 16	パーライト工場において、バケットエレベーター補修のため昇降路の腐食穴を塞ぐため鉄板で当板を行い周囲をアーク溶接作業中、衣服が燃え上がり、膝下から頭部まで重症熱傷を負い、翌日死亡した。	332	11	1～9
2011	12	18 ～ 19	ごみ焼却施設の焼却炉内で、焼却炉内の散気管に付着したクリンカ（灰などの塊）の除去作業中、壁面のクリンカ塊が落下したことにより、被災者Aが死亡し、被災者Bが負傷（第5頸椎剥離骨折）したもの。	529	90	1～9
2011	7	9 ～	被災者は、高さ6.27mの住宅の屋根の上で、太陽光発電パネルに取り	415	1	1～9

		10	付ける銘板を取り付ける作業中墜落した。			
2011	9	5 ～ 6	被災者は、ある事業場付属の寮より同僚4名と共に社用車で工事現場へ向かう途中、高速道路上で社用車の右後輪がパンクしたため路肩に停車させパンクの修理を行っていたところ、通行車両（大型トラック）にはねられ死亡したもの。	221	17	10～ 29
2011	8	17 ～ 18	被災者は、工場内において、同僚労働者とともに生産設備の電気制御盤の改造作業に従事していた。改造作業が完了したため、片付け作業が行われていたところ、被災者が倒れているのを別の労働者が発見し、救急要請が行われた。病院に到着後、処置が開始されたが、22時20分に熱中症により死亡が確認されたもの。	715	11	1～9
2011	5	17 ～ 18	ロール紙製造の最終工程におけるロワリングテーブルの昇降用油圧シリンダーの交換作業において、駆動側の安全ピンを抜いたところピット内でテーブルを支えていた組長は落下してきたテーブルに激突され死亡した。付近で油圧ジャッキ操作をしていた組員は左肩を骨折した。	169	6	
2011	11	11 ～ 12	工場内に設置された包装を行う機械（重量約1トン、長さ3.5m、幅0.6m、高さ1.9m）を撤去するため、機械の足4か所を小型台車4台に載せて機械前方に1名、機械後方に2名で機械を移動しようとしたところ、機械が機械側面にいた被災者の上に倒れて下敷きとなったもの。	362	5	50～ 99
2011	3	11 ～ 12	工場の機械設備移転のため、高さ8.5mの工場の搬出口に移動式クレーンでつり上げた搬器を横付けして、機械の搬出を被災者を含め5名で行っていたところ、重さ約3.5tの機械を搬器に乗せた際、搬器が傾き機械と共に被災者が墜落したもの。	372	1	10～ 29
2011	7	17 ～ 18	カントリーエレベーターのサイロ内において、冷却用ダクトを設置する工事中において、作業員2名で溶接作業を行っていた。この際、1名の作業員が現場を数分離れ現場に戻ったところ被災者が倒れているのを発見し、感電の疑いにより死亡したもの。この際、周囲の足場及び被災者に触れたところ「ビリッ」と感電する感覚が合ったとのことであった。	332	13	1～9



2011	5	14 ～ 15	<p>廃棄物の焼却熱を利用しボイラーから蒸気タービンを稼働させる前に、ボイラーからタービンをつなぐ配管の蒸気フラッシング（配管内の赤さび等を清掃する）作業を行っていた。バルブ操作により、配管内に2 MPaの圧力のかかった蒸気を流しては止めること20回程行うところ8回目のバルブの解放を行って全開に至る前に、配管の末端に設けていたサイレンサーと配管のつなぎ溶接部分と配管の溶接個所の2か所破断し、被災した。</p>	319	15	10～ 29
2011	12	9 ～ 10	<p>製糖工場内での蜜タンクの交換工事中に、現場で組立てたタンクの底板を裏返す作業に就いていた被災者が、当該タンク底板が73度の傾斜で立てられた状態のときに、墜落し、災害発生の翌日の午前10時ごろ、搬送先の病院で、肝臓損傷等のため死亡したもの。災害発生時の状況は不明だが、当該底板の工場床面から高さ3.3メートルの箇所付近から転落した可能性が高い。</p>	612	1	1～9
2011	5	14 ～ 15	<p>機械装置の増設工事が完了し、引渡し前の試運転を行っていたところ、加熱炉から出てきた鋼材をチェーンコンベアに送り出す装置（プッシャー）のエアシリンダーの作動に問題があったため、原因調査を行っていた。動作確認では作業責任者が安全確認を行っていたが、一時的に作業場所を離れていた被災者が作業場所に戻った際にエアシリンダーに近づき、作動させたエアシリンダーとコンベアの間に全身を挟まれ被災したもの。</p>	169	7	1～9
2011	5	15 ～ 16	<p>被災者がケージに乗って上昇中、5 m程度上昇した所で、ケージの前側ワイヤーが巻上げドラムから外れたため、ケージの前側がさがり、斜めになったため、被災者はケージから放り出され、墜落した。</p>	219	1	100 ～ 299
2011	11	10 ～ 11	<p>エレベーターの定期点検のため、被災者1名で作業を行っていたところ、エレベーターの昇降中に、安全帯のロープがエレベーター昇降路内部扉側部材のどこかに引っ掛かり、腹部を圧迫し、被災したもの。</p>	214	7	100 ～ 299
		9	<p>塩酸の入ったタンクの上部配管を移設するため、作業員Aは、配管の切断位置等を確認するためタンク上へ乗ったところ、タンク天板が抜けてタンク内部に転落した。それを目撃した同僚Bは、Aを助けるため、タンク上</p>			10～

2011	8	～ 10	のマンホール部にしゃがんで救助を試みるもマンホールごと抜けてしまい、Bもタンク内に転落した。タンクはFRP製で、塩酸濃度は35%であった。また、内容量は6.8立方メートル、水深約2mであった。	391	12	29
2011	8	9 ～ 10	塩酸の入ったタンクの上部配管を移設するため、作業員Aは、配管の切断位置等を確認するためタンク上へ乗ったところ、タンク天板が抜けてタンク内部に転落した。それを目撃した同僚Bは、Aを助けるため、タンク上のマンホール部にしゃがんで救助を試みるもマンホールごと抜けてしまい、Bもタンク内に転落した。タンクはFRP製で、塩酸濃度は35%であった。また、内容量は6.8立方メートル、水深約2mであった。	391	12	10～ 29
2011	5	14 ～ 15	荷物用エレベーターの定期補修において、ワイヤーロープの交換作業を3名で搬器上で行っていた。5本のワイヤーロープのうち2本が終了し、3本目の作業を行っていた際に搬器上から約3.5m下のカウンターウェイト上に墜落し、死亡したものの。	214	1	30～ 49
2011	11	10 ～ 11	被災者は下水処理ポンプ場建屋内で配電盤の撤去作業を行っていた。床には開口部（950ミリ×1510ミリ）があり、作業中はパレットを敷いて開口部を塞いでいたが、撤去作業が終了し、パレットを搬出しようと同僚と共に手で持ち上げ、横に移動しようとしたときに開口部から墜落した。3.74メートル下の地下ピット内に墜落し、真下の地下ピット内にも開口部があり、被災者はその下の汚水貯蔵槽に墜落した。	414	1	10～ 29
2011	8	8 ～ 9	電気炉のレンガ組立作業中、被災者他一名で電極ブロック（約63kg）を運搬中、バランスを崩し、電気炉内（足場としてベニヤ板が敷き詰められており、ベニヤ板までの深さが約1.3m）に電極ブロックごと墜落し、電極ブロックが被災者の顔面に激突した。	529	4	10～ 29
2011	2	10 ～ 11	被災者は同僚6名と新築鶏舎（平屋建）内にてブロイラー用給餌設備などの設置作業に従事。午前11時頃、一瞬にして屋根が鶏舎東側から崩壊し始め鶏舎中央付近で大きく倒壊し、被災者は救出後脳死状態で病院に搬送されたが翌日死亡した。	415	5	1～9

2011	10	13 ～ 14	被災者は、下水処理施設の消泡水管交換工事を行うに当り、反応池（深さ約6.8メートル、東西方向約61.5メートル、南北方向約5.6メートル）の側壁に吊り足場を組立て中、手すりが設置されていない箇所（作業床の高さ約5.4メートル）から墜落し出血性ショックにより死亡した。足場の組立て作業は被災者と職長の2名が従事していた。被災者は安全帯は身に付けていたものの使用していなかった。	411	1	1～9
2011	5	14 ～ 15	大定修工事現場において、溶鉱炉の炉床の入れ替え作業中、油圧ジャッキの調整を行っていたところ、油圧ポンプユニットから油圧ホースが外れて、当該ホースの先端が顔面に激突した。	219	6	50～ 99
2010	10	16 ～ 17	清掃工場内の定期補修工事において、下請作業員が2階部分に設けられていた物品揚卸用の開口部（約1m四方）から、4m下の1階のコンクリートの床に墜落し、死亡したもの。事故発生時、ウインチを使用し部品を4階に荷揚げする作業を行っており、そのため開口部の覆いが取り外されていた。なお、立入禁止等の表示は行われていなかった。事前に作業打合せがあったものの、被災者は開口部の覆いが取り外されていたことを失念していたとみられる。	414	1	10～ 29
2010	9	14 ～ 15	建屋脇の屋外に設置してある化学製品を貯蔵する円柱状のタンク（直径2m、高さ2.9m）の上部に手すりを増設するため、労働者2名がタンク上部で手すり土台の溶接（TIG溶接）作業中、土台の仮止めが終わったところで労働者1名が地面に降りて間もなく、溶接による高温によりタンク内に残っていたトルエンとI B A Cが爆発した。タンクは傾き、上部の平板が外れて変形し、被災者は地上6mの配管上で発見された。	332	14	1～9
2010	8	21 ～ 22	高速道路を走行中、前方のトレーラーに追突し、2名が死亡したもの。	221	17	10～ 29
2010	8	21 ～ 22	高速道路を走行中、前方のトレーラーに追突し、2名が死亡したもの。	221	17	10～ 29

2010	7	15 ～ 16	コンベアーと一体に組み込まれ、品物を自動で2階に運搬する昇降設備（リフター）について改造工事をしていた。被災者が中に入ってボルトを6つ締める作業をしていたところ、突然リフターが上昇し、リフター床部分と外枠部分に上半身を挟まれた。設備内部に設置されているセンサーが被災者を感知し、品物が入ったと機械が判断し自動で動いたと思われる。	229	7	1～9
2010	5	13 ～ 14	建設現場から事業場へ帰るため、ワゴン車で高速道を走行中、渋滞が発生していて、最後尾で停車していたところ、後方から来た3 tトラックが追突し、はずみで前の車にも玉突き衝突し、乗っていたワゴン車が炎上して乗車していた2名が死亡した。また、玉突き衝突した車両に乗っていた者が負傷した。	221	17	1～9
2010	5	13 ～ 14	建設現場から事業場へ帰るため、ワゴン車で高速道を走行中、渋滞が発生していて、最後尾で停車していたところ、後方から来た3 tトラックが追突し、はずみで前の車にも玉突き衝突し、乗っていたワゴン車が炎上して乗車していた2名が死亡した。また、玉突き衝突した車両に乗っていた者が負傷した。	221	17	1～9
2010	4	11 ～ 12	被災者は、原子炉圧力容器内で使用前検査受検準備作業のため、溶接部の磨き等の外観仕上げ作業をしていた。作業が終了したので外に出ようと作業で使用した用具を入れた取手付きの缶を持って、梯子（高さ約8.5 m、設置角度約85度）を昇っているとき、高さ4.4 m付近でバランスを崩し、墜落した。安全ブロックがあったが、使用していなかった。	371	1	10～ 29
2010	4	14 ～ 15	工業所内の作業所の钣金工作機撤去作業中、当該機械を分解するためにアセチレンガス切断器で、歯車の部分をガス溶断していたところ、床に落下する火の粉が作業ズボンに燃え移り、下肢から背部にかけて火傷を負った。病院に搬送されたが、1週間後に病院で死亡が確認された。	331	11	1～9
2010	3	11 ～	工場建物内へのプレス機械等の移設作業を、労働者等4名により工場敷地内で行っていた。貨物自動車（平ボディー車、最大積載量9 t）の荷台に積まれたプレス機械の荷卸し作業を行った後、被災者の姿が見あたらなくなったことから、敷地内を探したところ、隣地工場建物との間にある側溝	221	1	1～9

		12	内（深さ3.07m）で頭（保護帽を着用せず）から血を流して倒れている状況で発見し、搬送先の病院で死亡が確認されたもの。			
2010	3	3 ～ 4	木造3階建ての一軒家を賃借し、当該方面の工事現場に労働者を出張させたときの宿泊施設として使用していたところ、この建物の1階から煙草の火の不始末により出火して火災になり、宿泊していた労働者1名が一酸化炭素中毒で死亡、1名は両足に、1名はのどを負傷した。	911	16	10～ 29
2010	2	6 ～ 7	残業中に、心臓疾患を発症して倒れ、発見された時には亡くなっていた。長時間の過重労働とみられる。	921	90	1～9
2010	1	7 ～ 8	原子力発電所の定検工事中、タービン建屋1階の電気室での母線停電作業において、被災者が受電盤内部の端子にアースケーブルを取り付ける作業中、受電盤内部からアークが噴出し、被災者が死亡し、6人が負傷（火傷）した。なお、受電盤の1次側の電源を切っていなかったため、1次側端子（変圧器側）は充電中であり440Vの電圧がかかっていた。現場は放射線管理区域外で、放射性物質による汚染、被ばくはない。	352	11	1～9
2010	1	16 ～ 17	オール電化工事現場にて太陽光発電システム2階部分の配線工事の準備作業のため、保護帽、安全帯未着用のまま屋根に登り1階屋根を移動中、小雨が降っており、足が滑って高さ2.7mの屋根から墜落し、コンクリート張りの犬走りに頭を強打し死亡した。	415	1	1～9
2010	1	18 ～ 19	被災者はエレベータ1号機（同一シャフトに3機並列しており3号機は工事用として使用していた）のピット内コントローラー配線工事を1人で 行っていた。同僚が被災者の作業場所に行ったところ、2つ隣の3号機 のカウンターウェイト側の梁上にうずくまるように倒れていた被災者を発 見した。救急車を呼んだが内蔵損傷のため死亡した。稼働中の3号機の降 下してきたカウンターウェイトに接触し、これと昇降路の横架材との間に 挟まれたとみられる。	214	7	1～9
		10	船の修繕工事中、配管バルブを搬入していたところ、開口部より約3.7m			30～

2009	8	～ 11	下に墜落した。	414	1	49
2009	12	16 ～ 17	建築中のマンション（地上17階、地下1階）の1階部分から出火し、エレベーター昇降路内において、単独でゴンドラを使用して作業をしていた被災者が、流れ込んできた火炎（もしくは熱風）が昇降路内に充満してきたため被災した。	332	16	1～9
2009	9	9 ～ 10	工場建屋内に設置されている大豆用サイロの解体作業中、発じん防止のための散水用に設けられていた開口部からサイロ上面作業床にゴミを落とすため、開口部に覆いとして被せてあったコンパネ（縦90cm、横180cm、厚さ1.5cm）を持ち上げようとして、開口部（縦80cm、横85cm）から、約7m下のコンクリート床に墜落した。	414	1	1～9
2009	9	13 ～ 14	被災者は、水門ゲートのスピンドルの継手ボルトの締め付け作業を足場の最上段で行っていたところ、約27m下の地下最深部に墜落した。	411	1	10～ 29
2009	9	16 ～ 17	高速道路情報板設備更新工事において、情報板基礎部分のアンカー打設後の引抜き試験終了後、作業員5人で作業場所から工事用車両駐車場に一列で移動していた。その際、先頭を歩いていた作業員が脚立撤去を思い出し戻ろうとして振り向いたところ、最後尾の被災者がいないことに気づき、付近を確認したところ移動経路沿いの3.5m下を流れる川に転落しているのを発見し、死亡を確認した。	418	1	1～9
2009	6	8 ～ 9	被災者は立体駐車場内最上階（4階）の梁上において、テルハ（つり上げ荷重2.8t）により走行台車（約3m×6m、約2.7t）のつり上げ作業を4人と行っていた。4階まで走行台車をつり上げた際、走行台車が何らかの拍子で振れ、安全帯を使用していなかった被災者に当たり、約16mの高さから転落した。	211	1	1～9
		14	アルミ鋳造工場内の溶解炉集じん装置のダクト取替工事において、高さ約7mにある既設ダクトをウインチでつり、接合部分のボルトを外した後、下に下ろそうとダクトの向きを変えるなどしていたところ、ダクトの上に			

2009	10	～ 15	堆積したアルミ粉がこぼれ、真下に位置するアルミ溶解炉上に降り注ぎ、溶解炉上の空中でアルミ粉が「パチパチ」と音を立て燃え始め、やがて一気に火柱となって付近で作業を行っていた被災者が炎に包まれた。	519	16	1～9
2009	10	10 ～ 11	砂取船は台船2台と機関室等で構成され、台船はH鋼とボルトでつながっており、この上に機関室があった。この船を分解するため、船体の傾きを調整する移動式クレーンでつり上げる力を垂直に加え、ボルト溶断作業を行っていたが、移動式クレーンの足下が不安定であったため、一時中断し、玉外ししたが、台船と機関室が分断して転覆し、機関室も台船の間に落下し、被災者は台船と機関室にはさまれた。	391	7	10～ 29
2009	3	4 ～ 5	被災者は勤務後帰宅し、就寝中に急性心疾患を発症し、搬送先の医療機関で死亡が確認された。	921	90	30～ 49
2009	9	16 ～ 17	大学の研究事業の一環として、小水力発電装置を設置し、小水力発電装置の導水管を点検中、点検通路から5m下の土川の川底へ転落した。	417	1	10～ 29
2009	4	13 ～ 14	設置されているプレス機械の搬出のために被災者所属事業場から6人が災害発生場所へ出張して作業をしていた。フォークリフトでプレス機械を搬送しようとしているとき（同プレス機械上部とフォークリフトをワイヤーで緊結していた）に、前進したフォークリフトと同プレス機械の間にはさまれて死亡した。	222	7	1～9
2009	2	14 ～ 15	工場内で開発用に製作した冷蔵・冷凍・空調ユニットの据付、配管工事を請負った当該事業場の被災者が装置の配管盲を切断するため、脚立の3段目か4段目（80～110cm）の位置で切断作業をしていたところ、爆発音とともに被災者が転倒した。当該装置は窒素ガスによる気密試験圧力4MPaが保持されていた状態であった。	371	1	1～9
2009	1	16 ～	事業所の一次下請である被災者が3号エレベータの地下ピット内にハンドランプを置きに入っていたところ、当日、4号エレベータの据付工事を	214	7	300

		17	行っていた三次下請会社の作業者が3号エレベータを操作して地下1階に搬器を降ろしたため、同搬器とピット端部の間にはさまれた。			～
2009	12	22 ～ 23	養豚場の汚水処理槽内部に設置された攪拌装置（バッキレーター）の整備のため、被災者が1人で汚水処理槽の蓋を外し、車両積載形トラックレーンでバッキレーターを槽外に取り出し、整備作業を行っていたところ、蓋を外した槽の開口部に転落し、槽内の空気を吸い即死した。	414	1	1～9
2009	5	10 ～ 11	天井クレーンの走行レール取り換え工事において、被災者含む作業員3人は走行レールを巻き上げ機で水平移動させるために、レールの先端にワイヤーを取り付ける作業を行っていた。レールの先端にワイヤーを取り付け、ワイヤーが張った状態で休憩となったため、そのままの状態被災者が休憩所へ移動していたところ、何らかの原因で走行レールが落下し、被災者を直撃した。	521	4	1～9
2009	12	13 ～ 14	自社の物置小屋の整理作業に伴い、同社所属作業員2人と同社代表の父の3人で物置小屋内の鉄製棚を屋外に搬出するため、ガス溶断にて棚を分割する作業を行っていた。その際、保管されていた有機溶剤（シンナー系）の入った缶にガスの炎を接触させてしまい、これに引火して一気に室内に燃え広がり、作業に当たっていた3人が火傷を負った。	331	16	1～9
2009	12	13 ～ 14	自社の物置小屋の整理作業に伴い、同社所属作業員2人と同社代表の父の3人で物置小屋内の鉄製棚を屋外に搬出するため、ガス溶断にて棚を分割する作業を行っていた。その際、保管されていた有機溶剤（シンナー系）の入った缶にガスの炎を接触させてしまい、これに引火して一気に室内に燃え広がり、作業に当たっていた3人が火傷を負った。	331	16	1～9
2009	1	7 ～ 8	社用車に作業員3人が同乗して、会社事務所から工事現場に向かう途中、路面が凍結していたため、スリップして道路を飛び出し電柱に衝突した。1人が死亡し、1人が重傷を負った。	231	17	10～ 29
		9	道路の防雪柵設置工事現場において、被災者は、荷つり作業をしていた車両積載形トラッククレーンの後ろ側に立ち、交通誘導を行っていたところ、市街地から走行して来た乗用車にはねられた。その後、乗用車は車両			30～



2009	12	～ 10	積載形トラッククレーンに追突し、被災者は、乗用車と車両積載形トラッククレーンにはさまれた。なお、現場には注意喚起のカラーコーンと看板が置かれていた。事故時の天候は晴れ、路面は乾いていた。	418	5	49
2009	12	9 ～ 10	道路の防雪柵設置工事現場において、被災者は、荷つり作業をしていた車両積載形トラッククレーンの後ろ側に立ち、交通誘導を行っていたところ、市街地から走行して来た乗用車にはねられた。その後、乗用車は車両積載形トラッククレーンに追突し、被災者は、乗用車と車両積載形トラッククレーンにはさまれた。なお、現場には注意喚起のカラーコーンと看板が置かれていた。事故時の天候は晴れ、路面は乾いていた。	418	5	30～ 49
2009	3	9 ～ 10	被災者は営業先に向かうため、社有車を運転し国道を走行中、対向して走行してきた乗用車がセンターラインをはみ出し、前方の車と接触後、さらに被災者の乗用車と正面衝突した。現場は直線道路で、路面は乾燥していた。	231	17	10～ 29
2008	1	11 ～ 12	建築工事現場（設備据付工事）で、製造ラインの制御盤（重さ700kg）をチェンブロックを使ってつり上げた。その後、横方向に移動させるため、違うチェンブロックで横引きしていたところ、垂直用フックから荷のチェーンがはずれて下で作業していた作業者が下敷きとなった。	361	4	1～9
2008	5	8 ～ 9	被災者が所属事業場に自家用車で出勤した際、駐車場に右折して入る時、大きく膨らんで曲がったため道路脇の樹木に激突して死亡した。	231	18	100 ～ 299
2008	10	10 ～ 11	被災者は、ボイラー燃焼室の耐火物の改修工事中、同燃焼室内に設置した単管足場上で燃焼室本体に直接溶接された「Yスタッド」と呼ばれる耐熱材支持部材の上に「ラス」と呼ばれる金網の取り付け作業を行っていた。単管足場の単管の上部に照明用の「投光器」を2個クランプで取り付けていたが、その「投光器」の1個に漏電が発生したため、感電して死亡した。	359	13	10～ 29
			被災者は、機械装置（乾燥設備）周囲のフードパネル取付工事に同僚ら3			

2008	9	2 ～ 3	人と共に従事していた。機械装置の天井に仮置きされたフードパネル（1枚約150kg）の片方を天井クレーン（5t）でつり上げ、フードパネルを垂直に立てかける準備作業を行っていたところ、作業床の端部（高さ約9m）から墜落して死亡した。	416	1	1～9
2008	5	14 ～ 15	移転後の工場建屋内の設備の撤去工事において、壁面のラック等の設備の撤去作業等に従事していたところ、壁際の床に倒れているのを発見された。壁面構造物からの墜落であった。	418	1	1～9
2008	8	10 ～ 11	採石場内に破碎機を設置する工事において、破碎機の付属設備である仮置き中の架設通路に、移動式クレーンでつり上げた張出しデッキを取り付ける作業を実施した、その後、玉掛したワイヤロープをはずしたところ、架設通路が張出しデッキ側に傾いて地上に落下したため、架設通路上で作業していた被災者が架設通路とともに約10m下まで墜落した。	418	1	1～9
2008	5	14 ～ 15	廃屋の工場内において、つり下げて設置されている鉄製収納箱（幅約2m、奥行き約10m、深さ約1.5m）を解体して搬出する作業を作業員3名で行っていた。鉄製収納箱を下ろすために作業員1名が同収納箱をつつていたL字鋼を切断したところ、落下した同収納箱の先端が、近くで散水の作業を行っていた被災者に激突して収納箱と建物の壁にはさまれ死亡した。	391	4	1～9
2008	9	10 ～ 11	工場の新築工事において、被災者がエレベーターピット内の簡易リフト設置のために足場を降りている時、約7.5m下の地面に墜落した。	411	1	30～ 49
2008	8	8 ～ 9	被災者は地下タンク改造工事の作業員として職長とライトバンに同乗して現場の駐車場に到着後、現場の集合場所に徒歩で向かう途中で忘れ物に気付いてライトバンに戻った。その後、職長らが被災者の到着をしばらく待ったが、現れなかったため工場内を捜索したところ、地下タンク改造工事現場の、深さ3.6mのピット内で倒れているのを発見した。	414	1	1～9
2008	5	10 ～	被災者は既存設備のはしご道を昇ろうとして1段目か2段目まで昇ったところ	371	1	1～9

		11	ろで転落した。			
2008	4	8 ～ 9	フォークリフト（積載荷重2.5t）を使用して、車両積載形トラッククレーンの荷台へ配管（173kg）を積み込む作業中に、被災者が荷台上で荷役作業の補助を行っていたところ、バランスを崩して1.15m下の地面に転落し、その上に配管が落下してきて下敷きになり死亡した。	521	4	10～ 29
2008	3	13 ～ 14	クリーンブースの解体工事現場において、クリーンブースの上に設置されたクリーンユニットと称する箱型の換気装置の撤去作業の際、被災者を含む3名でクリーンブースの上に乗ってクリーンユニットを持ち上げて一旦仮置きしたところ、バランスを崩した被災者がクリーンブースの端から2.5m下の地面に墜落して死亡した。	418	1	10～ 29
2008	4	10 ～ 11	タンク改修工事に従事していた被災者は、休憩が終わり作業現場に戻ろうとして屋内の現場に入るために設けた仮設の出入口で靴等の履き替えていた。そこに隣の現場（同一元請の別の請負）から出た廃材を積み込むためのトラックが仮設の出入口に突っ込み被害者をはねた。	221	6	30～ 49
2008	5	15 ～ 16	キルンの補修工事において、キルン排気ダクト建物の屋根（波型スレート製）を歩行していた際、当該屋根を踏み抜き、約5.4m下のコンクリートの床に墜落した。	415	1	30～ 49
2008	8	7 ～ 8	現場代理人である被災者が、午前8時から行われる打ち合わせ時間になっても現場に現れなかった。作業者が捜したところ機械室の地下にある原水調整槽の開口部（1.0m×0.5m）に設置していた囲いの一部が外されていたので、不審に思いその開口部から水槽内を確認したところヘルメットが浮かんでいるのが発見されたため、水槽内の水を排水したところ被災者が発見された。	418	10	1～9
2007	5	14 ～ 15	ニッケル工場残渣処理建屋において、溶融硫黄の受け樋の取り付け作業中、受け樋500kgをつり上げ荷重2tの天井クレーンにて二階部分までつり上げ、一旦停止させていたところ、玉掛け用ワイヤロープ2本の内1本が切断し、荷が振れ落ちて、荷の下で受け樋取り付け位置のフランジ	372	4	1～9

			の清掃作業を行っていた被災者が、受け樋と 2 階床面にはさまれた。			
2007	8	16 ～ 17	建設工事において、配管（内径 6 0 c m、長さ約 8 m、重量約 8 0 0 k g、2 箇所枝部分あり）を取り付けるため、作業員 2 名でつり上げ荷重 1 t のチェンブロック 4 つを使用し巻き上げ、取付位置を合わせていた際に突然配管が振れて近くにいた被災者に激突し、仮付けしていた別の配管との間にはさまれた。	361	6	1～9
2007	10	17 ～ 18	農業集落排水処理施設工事の現場において、現場の後片付け中、深さ 5 m の浄化槽の開口部から墜落した。	414	1	10～ 29
2007	10	17 ～ 18	工事現場から帰社するため堤防道路を西進していた 4 5 t のラフタークレーンが左側に脱輪し、1 回転しながら約 5 m 下の公園へ転落し、運転していた被災者は転落の際運転席から車外へ投げ出された。	212	17	100 ～ 299
2007	1	11 ～ 12	コークスガイド車の集じん装置を改良するため、被災者ほか 3 名で同装置の吸気ファンを当該ガイド車の最上部（高さ約 9 m）の手すりに囲われた箇所に移設する作業をしていたが、作業場所付近の手すりのない箇所から被災者が墜落した。	169	1	10～ 29
2007	1	16 ～ 17	重さ約 1. 5 t の空調設備を高さ 2 0 c m のコンクリート基礎に据え付けるため、空調設備を台車に乗せ、2 名が両脇から空調設備を押し、1 名が正面からバールで空調設備の底を持ち上げて基礎に載せていた。バールで空調設備の底を持ち上げたところ、空調設備が横転し、空調設備を押していた作業員が下敷きになった。	612	5	10～ 29
2007	5	10 ～ 11	発電機更新工事において、発電機に送風するダクト（重量約 2 t）のフランジ部に金具を取り付け、天井クレーンでつり上げてダクトの位置を調整していたところ、フランジ部がダクトから外れ、ダクト本体がピット内にいた被災者に落下した。	612	4	30～ 49
2007	5	13 ～	被災者ら 3 名は、排気ダクト設置のため、高さ約 6 m の屋根上にフォークリフトを使用して材料の荷揚げ作業を行っていた。高さ 3 m のところで、ロープで荷締めをして、屋根上にいた作業員が荷を引き上げた後に、当該	222	1	1～9

		14	リフトのフォークに乗っていた被災者が3 m下のコンクリート土間に墜落した。被災者は、ヘルメット及び安全帯が未装着であった。			
2007	9	9 ～ 10	被災者は、鉄骨工作物の基礎コンクリート打設のための型枠用コンパネを携帯用丸のこ盤を使用して切断していたところ、回転している丸のこ盤の歯が当たった。	131	8	1～9
2007	9	17 ～ 18	4階フロアの機械室と同階クリーンルームエリア間を結ぶダクト設置作業において、機械室とクリーンルームエリアに分かれて作業を行い当該設置作業が完了し、クリーンルーム側で作業を行っていた被災者が機械室側に戻る途中、機械室側へ通じる扉と間違え、搬送リフト昇降路の点検扉を開け足を踏込んだため、4階フロアより2.5 m下の当該昇降路ピットへ墜落した。	418	1	1～9
2007	9	10 ～ 11	既設12階建マンションの3号機エレベーターの修繕の段取作業として、事業者が、11、12階間に止めたエレベーター搬器の天井上に乗って、チェーンブロックによる搬器固定作業を行っていた際、その腰袋（手工具入れ）の中のラチェットレンチが約3.3 m落下し、当該エレベーターのピット部分にいた被災者に当たった。	364	4	1～9
2007	3	10 ～ 11	災害復旧工事現場において、被災者が車両系建設機械（ドラグ・ショベル）を使用して、ケーブルクレーンのアンカー設置のための穴を掘削（掘削勾配は約90度）作業中、当該掘削溝内部に被災者が立ち入ったところ、掘削法面が崩壊し、被災者が崩壊した土砂に埋まった。	711	5	10～ 29
2007	7	13 ～ 14	ガラスの自動搬送機械の設置工事中において、ガラスを2階から1階部分へ降ろす搬器部分の位置を微調整するため、搬器のカウンターウエイトを外していた際に搬器が落ち、下にいた作業者がつぶされた。	219	4	1～9
2007	1	16 ～ 17	化学設備機器の移設工事において、既設工場の化学設備機器を新工場へ移設するため、既設工場の屋根上に乗リスレート屋根を取り外す作業を行っている際、スレート屋根を踏み抜き、約6.5 m下のコンクリート床に墜落した。	415	1	10～ 29

2007	9	15 ～ 16	<p>常温L P G貯槽（球形タンク）の開放検査工事において、タンク内の磁粉探傷試験を行っていた際、タンク内部に設けた足場の最上層にある開口部から約18m下のタンク内に墜落した。</p>	411	1	50～ 99
2007	7	12 ～ 13	<p>廃液処理設備新設工事において、長さ723cm、幅214cm、高さ145cmの排水貯水槽の内壁の防水塗装作業中に死亡した。トルエン含有物を用いて塗装を行っていた。</p>	514	12	1～9
2007	9	11 ～ 12	<p>工場内に据え付ける除湿器（二圧、重さ0.9t、高さ2.5m、幅1.2m）を建屋内に搬入するため、車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重3t）につり下げて横倒しにしたところ、荷が振れて、これを押さえようと駆けつけた被災者が荷（下部フレーム）と移動式クレーンの、張り出したアウトリガーの間にはさまれた。</p>	612	7	1～9
2007	7	14 ～ 15	<p>エレベーター改修工事において、被災者は、昇降路2階出入口から、ピットの緩衝装置に保持されている搬器の床の上に、墜落（墜落高さ355cm）した。改修工事に伴い、搬器の囲い（天井と壁）は取り外されていた状態であった。</p>	214	1	1～9
2007	5	15 ～ 16	<p>ビル内の空調設備の移設工事の依頼があり、見積書作成のため、設備関係の確認及び配電盤の位置確認を行っていた。配電盤位置確認のため、6階フロアーに設置されている車両搬送用エレベーター点検用扉から内部に入り、携帯電話の明かりで配電盤の位置を探そうとしたところ、誤ってエレベーター開口部から高さ19.3m下に墜落した。</p>	414	1	300 ～ 499
2007	9	8 ～ 9	<p>被災者は変電室の屋根に設置されたファンを点検するため、スレート材屋根の上に足場とコンパネを敷き、点検作業を行っていたところ、ファンのカバーを取り除いた際、足を踏み外し、スレートを踏み抜いて高さ約4mのところから墜落した。</p>	415	1	1～9
2007	6	11 ～ 12	<p>黒土乾燥室において、黒土乾燥機械の移設作業中、ハンドリフトに積載していた当該黒土乾燥機械の一部（コンクリート製の円筒とその架台）が倒れ、作業者に激突した。</p>	612	5	10～ 29
			<p>馬鈴薯選別機械の据付工事において、機器の撤去・据付作業が終了し、</p>			

2007	3	9 ～ 10	チェンブロックの走行レール用に架設したH鋼（長さ12m、重量約240kg）を取り外すため、天井の梁（約4m）に固定していた2個のクランプを外していた際、H鋼が振れ、脚立上の作業者が墜落、その上にH鋼が落下して作業者を直撃した。	521	4	100 ～ 299
2006	3	6 ～ 7	客先との懇親会出席中に苦しくなり病院に搬送され、入院加療をしていたが死亡した。	921	90	1～9
2006	12	13 ～ 14	採石プラント解体工事現場において、解体した機械（ロッドミル）の架台（縦6740mm、横3660mm、高さ1010mm）を2段に積み、その上に鉄製とい（長さ7030mm、幅395mm、高さ450mm、重量約700kg）を乗せ、ホイールクレーンにて架台ごとまとめて吊りあげようとしたところ、固定されていなかったといが落下し被災者に激突した。	212	4	10～ 29
2006	12	8 ～ 9	アスファルト合材を収容するサイロの設置工事現場で、バケットエレベーターに使用する鉄骨材（重さ約4トン）を移動式クレーン（つり上げ荷重25トン）を用いて吊り上げようとしたときにナイロンスリングが切断して落下し、近くで玉掛け作業をしていた被災者が下敷きとなった。	372	4	100 ～ 299
2006	12	8 ～ 9	アスファルト合材を収容するサイロの設置工事現場で、バケットエレベーターに使用する鉄骨材（重さ約4トン）を移動式クレーン（吊り上げ荷重25トン）を使用して吊り上げようとしたときにナイロンスリングが切断して落下し、近くで玉掛け作業をしていた被災者が下敷きとなった。	372	4	100 ～ 299
2006	11	17 ～ 18	被災者が片側2車線の国道の追越車線を軽トラックで走行中、前方で右折待ちをしていたダンプトラックに追突した。	221	17	1～9
2006	11	9 ～ 10	靴製造の事業場において、靴加工用機械を3階から4階に移設するため、3階の作業室内からベランダまで仮設の作業床上をハンドリフトを使用して機械を移動させていたところ、開口部となる仮設の作業床の端部から約7.5メートル下の地上のアスファルト床に墜落した。	414	1	1～9

2006	10	11 ～ 12	清掃工場内にごみを搬送するコンベアを設置する作業において、コンベアにエプロンパン（金属板）を取り付ける作業中、コンベア内でエプロンパンを下にずらす作業をしていた被災者が、急に動いたエプロンパンに押されコンベア下部にはさまれた。	224	7	10～ 29
2006	8	14 ～ 15	倉庫の入口シャッター取替え作業において、シャッターを溶断するため、倉庫2階に上がったところ、2階床のブルーシート（515×304cm）で覆われた開口部（168×101cm）から274cm下の1階コンクリート床に墜落した。	414	1	10～ 29
2006	9	～	染色工場内に小型ボイラー（8基）を設置するため、野外通路に仮置きされていた小型ボイラーの搬入作業を4人で行っていた。5基目を搬入する際、被災者Aの指揮のもとフォークリフトとハンドリフトをボイラーの両端に差込み、持ち上げたところボイラーが傾き、ボイラーを支えようとした2名がボイラーの下敷きになった。	222	5	1～9
2006	9	～	染色工場内に小型ボイラー（8基）を設置するため、野外通路に仮置きされていた小型ボイラーの搬入作業を4人で行っていた。5基目を搬入する際、被災者Aの指揮のもとフォークリフトとハンドリフトをボイラーの両端に差込み、持ち上げたところボイラーが傾き、ボイラーを支えようとした2名がボイラーの下敷きになった。	222	5	1～9
2006	9	13 ～ 14	試作品製造のため既存のタンク（直径2.5m高さ3m、容量10m <sup>3</sup> ）に新たな配管とセンサーを取り付けるため、労働者2名が当該タンクに入り作業していたところ、急にタンク内の攪拌棒が回転し始め、1人が死亡し、1名が負傷した。	391	7	10～ 29
2006	8	～	オートクレーブグランドパッキン交換及びベアリング交換工事において、被災者ら3名でオートクレーブ内の高さ2.9メートル幅2.7メートル重さ約4トンの台車に載ったクーラーヒーターを、フォークリフトを使用してオートクレーブ内を移動させていたところ、台車の車輪が脱輪してクーラーヒーターが倒れ、被災者が下敷きになった。	612	5	10～ 29



2006	8	14 ～ 15	工場内でコンベアの調整作業（数値の測定作業）を行っていた被災者が測定を行うためコンベア下部に体を持ち入れ、コンベアモーターの電源の制御盤から繋がっているコンセント（210ボルト）と接触したとき、コンセント根本のコードの被覆が破け漏電し、被災者が感電した。	351	13	1～9
2006	8	9 ～ 10	集じん機の屋根（スレート）上ダクト撤去工事において、台風が接近していたため当日予定していた作業を中止し、前日の作業後に行ったダクト撤去跡の開口部の雨養生（防災シート等）を補強することとなった。現場代理人と被災者で屋根に上がり補強作業を行っていたが、被災者の姿が見えないことに気づき探したところ、約40m下の工場ピット内に倒れている被災者を発見した。	415	1	10～ 29
2006	8	15 ～ 16	被災者は産業廃棄物溶融処理設備の排ガス処理系の煙道に付着した灰のはつり作業を行っていたが、午後目撃されたのを最後に、姿が見えなくなった。翌日の午後、4階煙道の裏側で被災者が発見された。	715	11	10～ 29
2006	8	14 ～ 15	米麴室の改修工事中、一旦取り外した操作盤の取付時、同僚が盤を持ち、被災者が電線で繋がる中のパネル板を掴んだ。この時、操作盤の元電源が入っており、また、パネル板のスイッチ等に接続する電線がいくつか外れていたことから、この電線の端子部に触れ感電した。	359	13	1～9
2006	7	10 ～ 11	被災者は、高さ約3メートルの洗浄ブースの鉄骨フレーム仕上げ塗装のため、脚立の上から2段目の位置、高さ約1.5メートルにまたがり、刷毛塗りを1人で行なっていたところ、脚立より墜落した。	371	1	1～9
2006	6	10 ～ 11	工場内のスクラップを搬送する台車に手すりを取り付ける工事を行うため、作業用の足場を組み立てる準備をしていた。被災者はピット内に足場を組むため、ピット上部から足場の材料（1200枠）を手作業にて荷卸し中、ピット内に約2.2m墜落した。	418	1	10～ 29
2006	6	9 ～ 10	ガス溶接機械を使用してタイヤチップ処理設備のホッパー（チェーンコンベアにより搬送するもの）の下部覆いの鉄板の溶断作業を行っている最中に、ホッパー全体が傾き、ホッパーの覆いと設備の支柱に挟まれた。	224	7	10～ 29
			採石場におけるフィルタープレス設置工事に伴うS造2階建建屋の鉄骨建			

2006	6	13 ～ 14	て方作業中、すでに建てた鉄骨梁に間柱を建てるため、梁にはしごを掛け、被災者がはしごを上がり、梁を移動式クレーンで巻き上げたところ、梁と柱の溶接が破断し梁が跳ね上がり、被災者ははしごから墜落した。	371	1	1～9
2006	6	12 ～ 13	自動搬送装置にトラブルが発生し、調整のため被災者他2名で現場に入った。作業員が、被災者に対して手動運転用の操作盤を手渡す際、誤って操作盤を操作してしまったため、当該自動搬送装置が稼働し、傍にいた被災者が当該自動搬送装置と床との間にはさまれた。	167	7	10～ 29
2006	5	15 ～ 16	機械室において、発電機等の関係設備を撤去する作業中に、制御盤（高2.15m×横1.0m×奥2.2m、重1.0t）を長さ30cmのコロを使用し、搬出口の方へ横移動させていたところ、コロが基礎部分からずれて溝に落下。そのため制御盤がバランスを失い、被災者側に倒れてきて、制御盤と基礎の部分にはさまれた。	612	7	10～ 29
2006	4	11 ～ 12	重量約20tの定量フィーダ（汚泥の計量機）の解体作業において、定量フィーダは高さ5.5mの位置に設置されていたが、その固定箇所を前日及び当日の作業で溶断していたにもかかわらず、被災者は、定量フィーダ外側で定量フィーダの側壁をガス溶断していたため、落下してきた定量フィーダと作業床として使用していた鉄骨梁に挟まれた。	391	4	10～ 29
2006	3	13 ～ 14	6階フロアーに機械設備を搬入するため、4名の作業員が6階のフロアーの搬入口扉を開け、屋外ステージ上で準備作業を行っていたところ、突然強風にあおられた搬入扉が閉り、ステージ上で手摺りの撤去作業を行っていた被災者に当り、その反動で約18m下の地面に墜落した。	418	1	10～ 29
2006	2	10 ～ 11	ダム堰堤改良工事において、被災者がダム放水路内に設けられた作業構台を解体していたところ、作業構台の基礎部材であるH鋼が外れH鋼とともに水深約5メートルの川に転落した。被災者は、自力で泳ぎ救助を求めていたが、約5分後姿が見えなくなった。その後の捜索により発見されたが、死亡が確認された。	418	1	1～9
		18	垂直搬送機の新設後の試運転調整作業中に搬送機の架台とカウンターウエ			10～

2005	10	～ 19	イトとの間に挟まれた。	219	7	29
2005	1	11 ～ 12	既設のベルトコンベヤーを撤去するため、コンベヤーカバーのボルトを取り外していたところ深さ5mの水路に転落した。	418	10	10～ 29
2005	8	0 ～ 1	発泡スチロールを処理する機械の移設作業中、高所作業車に乗り、配管作業をしようとしていたところ、既設の梁と高所作業車の作業床との間に挟まれた。	146	7	30～ 49
2005	2	16 ～ 17	13階建てアパートのエレベーター改修工事において、エレベーターの搬器の天井部分に乗って、エレベーターの昇降路内の配線工事を行っていたところ、当該搬器をつっていた電動チェーンブロックのつりチェーンが破断して、搬器ごとピットまで30m墜落した。	214	1	10～ 29
2005	11	19 ～ 20	ビル屋上に携帯電話の中継基地を作る建設工事において、トランスを取り外す作業中、屋上（地上高さ20m）から墜落した。	418	1	1～9
2005	1	16 ～ 17	トラッククレーンのカウンタウエイトを取り外す作業を行うにあたり、クレーン上部旋回体のウインチ近くに設けられたカウンタウエイト油圧シリンドラのピンを抜いていたところ、ウインチに巻き込まれた。	219	7	10～ 29
2005	8	13 ～ 14	製造プラント据付け工事現場において、L型鋼の位置決めをするためローリングタワーの上を伝って作業場所へ移動しようと、左手でローリングタワーの布板を、右手で工場の鉄骨柱を掴んで体を持ち上げようとしたところ、感電した。	332	13	1～9
2005	9	15 ～ 16	廃止したクレーンの解体工事において、クレーンガーダー側面に取り付けられている横行トロリ線に接触し、感電した。	351	13	1～9
2005	8	11 ～	資材置場において、門型手動チェーンブロック式重量物つり上げ装置の部材台座に置く作業をしていたところ、台座上の支柱（重さ420kg）が落下	521	4	1～9

		12	し、被災者に激突した。			
2005	12	11 ～ 12	ダクト内のバイパスダンパー内で、パッキンの漏れ等の確認をしていた時、ダンパーが閉まり、ダンパーとダクトとの間に挟まれた。	391	7	30～ 49
2005	11	19 ～ 20	高速自動車道を走行中、トラックの荷台に空いていた穴から道具箱が後輪に触れ、これがブレーキとなってトラックが制御不能となり横転、被災者が横転したトラックの下敷きとなった。	221	17	1～9
2005	4	10 ～ 11	多機能ダストホッパーの組付け作業中、円筒（直径3m、長さ2m、重さ1.8トン）の接合面に接着剤を塗る作業において、横倒しになっている円筒の内側に入り込んだところ、円筒が起き上がり、その円筒の下敷きとなった。	521	5	1～9
2005	1	13 ～ 14	ブドウ糖液を貯蔵するタンク間をつなぐ配管敷設工事中、高さ10mのタンク上部から地上まで墜落した。	418	1	10～ 29
2005	5	11 ～ 12	工場2階から1.5トンの保管棚をハンドリフトに載せてエレベーターで1階に下ろした後、被災者がエレベーターから当該ハンドリフトを後ろ向きで出したところ、エレベーター前の床が下り勾配のため、自重で速度が増し、勾配が戻ったところでハンドリフトが止まったことから、当該棚が倒れて被災者が下敷きとなった。	362	6	50～ 99
2005	6	13 ～ 14	機械設備の据付け作業において、フォークリフトのフォーク上にワイヤで固定されていた機械（重さ1.5トン）を外したところ、機械が倒れて機械の下敷きとなった。	612	5	30～ 49
2005	8	7 ～ 8	サイロの改修工事においてシートからの浸水がないかを確認しようとして、サイロ頂部から貯蔵物であるセメント面まで15m墜落した。	418	1	10～ 29
2005	10	17 ～	エレベーター改修工事において、足場から足場板もろとも20m墜落した。	411	1	10～ 29

		18				
2005	2	17 ～ 18	建屋の破損したスレート屋根のふき替え工事に於いて屋根上を移動中、棟を越えた場所でスレート屋根を踏み抜き、8m下のコンクリート床に転落した。	415	1	10～ 29
2005	6	16 ～ 17	火力発電所の定期点検中、給水加熱器のマンホール内部で倒れた。	714	12	1～9
2005	7	10 ～ 11	エレベーターの検査受験準備のため、ピット内で試運転・調整・データ取りの作業を行っていたところ、搬器が急に落下し、床面との間に挟まれた。	214	4	1～9
2005	1	11 ～ 12	作業手順を検討中、高さ6mの作業床にあった開口部より地面に墜落した。	414	1	1～9
2005	8	14 ～ 15	製紙用チップヤードの解体工事に於いて、ヤード内にチップを円周状に均一に撒くための旋回コンベヤーの先端部分を溶断していたところ、溶断直後に旋回コンベヤーの本体旋回部分が旋回台を中心に反対側にひっくり返り、落下したため、これに乗り安全帯をかけて作業を行っていた被災者が旋回コンベヤーの本体とともに墜落した。	224	1	1～9
2005	8	0 ～ 1	クラブトロリー式天井クレーンの運転室のクーラー増設工事に係る吸排気ダクトの保温材の取付け作業中に、クレーンのトロリー線（400V）に被災者が接触し、感電した。	211	13	1～9
2004	2	19 ～ 20	工場内に於いて、不要機械設備の撤去作業が終り、既設棟と新棟を仕切るために設置してあったブルーシートの復旧作業を終え、フォークリフトに設置した高所作業台を下降していたところ、高さ2.1mのところの高所作業台のバランスが崩れ、搭乗していた被災者が高所作業台とともに墜落した。	222	1	1～9
			厚板工場内に於いて、厚板の矯正を行う矯正機の調整工事中、前面ピンチ			

2004	12	19 ～ 20	ロールにアイボルトを取り付けるため、テーブルロール減速機からスピンドルカバー上を通り、テーブルロール架台へ渡ろうとした際、梁にぶつかってバランスを崩し、スピンドルカバーと前面ピンチロールとの間にある開口部から3.7m下の基礎部に墜落した。	414	1	300 ～ 499
2004	9	14 ～ 15	ロボット工場の配電盤等の取付作業において、仮止めされた溶接箇所を、本付けするために脚立（高さ2.6m）に上がり、作業を行おうとしたところ、溶接棒のホルダー欠損部の金属露出部等に触れ、感電し脚立から転落した。	332	13	1～9
2004	9	10 ～ 11	工場のスレート屋根に天井換気扇を取り付ける工事において、歩み板の撤去を終え、屋根の頂上に向かって歩いていたところ、スレートが割れて高さ約13m下の工場内に墜落した。	415	1	10～ 29
2004	3	11 ～ 12	カムシャフト研掃装置新設工事現場にて、バケットエレベーターのケーシングを組み付けるため10t移動式クレーンとチェンブロックを用いて当該ケーシングをつり上げていたところ、つり荷が横転、落下し、玉掛けを修正しようとしていた被災者が当該吊荷と床の間に挟まれた。	212	4	1～9
2004	7	8 ～ 9	ボイラー用煙道として直径3mダクトを10本設置する工事で、トラック荷台に固縛されたダクト上にはしごで上がり、上架のため本ワイヤーに交換後、はしごから降りる際、はしごが滑って、墜落した。	612	1	1～9
2004	3	14 ～ 15	休止中の反応器の配管工事のため、足場材を移動式クレーン（つり上げ荷重45 t）で反応器の2階床につり込んでいたところ、つり荷につけてあった介錯ロープ（長さ7.9m）が既に組んであった反応器の足場に引っかかり、荷が傾き足場材が落下し、作業中の被災者に激突した。	611	4	1～9
2004	4	15 ～ 16	店舗の天井に取り付けられた空調設備の配管の接続を行うため、ローリングタワー（作業床高さ約3.6m）上で作業中、ローリングタワーの手すり外れ、地上に墜落した。	411	1	10～ 29
2004	2	14 ～	太陽熱温水器（ソーラーパネル）の取替え工事で、屋根に設置してある古い温水器を取り外し、屋根の棟に乗せたところ、その弾みでソーラーパネルのガラスが割れ、そのまま前かがみの姿勢で屋根を滑り落ちアスファル	415	1	1～9

		15	トの地面に墜落した。			
2004	5	9 ～ 10	資源リサイクルセンター内に設置されているゴミ焼却施設の一部となる廃熱ボイラの性能検査を受けるための清掃および点検作業中、開放された気水ドラムの中でスプレー式の染色浸透探傷剤で溶接個所のカラーチェックを行った後に、缶内で爆発が発生したため、気水ドラム外側マンホール付近にいた被災者が爆風で吹き飛ばされた。	513	14	1～9
2004	3	10 ～ 11	下水道処理施設の地下1階の床面に敷かれた鉄板の取替え工事において、新品の鉄板を地上部1階から搬入するため被災者ほか1名が人力で地上部の床面の鉄板（1枚あたり重量約100kg）を取り外す作業を行っていたところ、バランスを崩して当該鉄板を外した開口部（約330cm×110cm）から約6メートル下の地下1階の床面へ墜落した。	416	1	10～ 29
2004	8	15 ～ 16	発電所タービン建屋内において復水配管が破口し、配管内部を通っていた2次冷却水が噴出したため、付近で定検準備作業を行っていた被災者らが高温の蒸気および熱湯を浴び被災した。	312	15	10～ 29
2004	8	15 ～ 16	発電所タービン建屋内において復水配管が破口し、配管内部を通っていた2次冷却水が噴出したため、付近で定検準備作業を行っていた被災者らが高温の蒸気および熱湯を浴び被災した。	312	15	10～ 29
2004	8	15 ～ 16	発電所タービン建屋内において復水配管が破口し、配管内部を通っていた2次冷却水が噴出したため、付近で定検準備作業を行っていた被災者らが高温の蒸気および熱湯を浴び被災した。	312	15	10～ 29
2004	8	15 ～ 16	発電所タービン建屋内において復水配管が破口し、配管内部を通っていた2次冷却水が噴出したため、付近で定検準備作業を行っていた被災者らが高温の蒸気および熱湯を浴び被災した。	312	15	10～ 29
2004	8	15 ～ 16	発電所タービン建屋内において復水配管が破口し、配管内部を通っていた2次冷却水が噴出したため、付近で定検準備作業を行っていた被災者らが高温の蒸気および熱湯を浴び被災した。	312	15	10～ 29
		9	深さ19.4mの取水槽底版からクレーンを使用して、解体した足場材料を搬			

2004	3	～	10	出する作業の準備中、取水槽中床版の通路にある開口部から8.6m下に墜落した。	414	1	300～
2004	7	～	9	8 自動倉庫のラックを解体する作業で、高さ約10mの位置にあったラック部材2カ所を足場にして、高さ約11mの位置にあったラック部材1本をガス溶断して取り外していた際、バランスを崩して、地上に墜落した。	229	1	10～29
2004	5	～	7	6 乗用車を運転中、運転を誤って道路脇の信号機に激突した。	231	17	30～49
2004	2	～	11	10 10tトラックに旋盤の付属装置（重量約1t）を積み込むため、付属装置にシャフトを2本通し、玉掛作業中、シャフトから玉掛ワイヤロープが外れ、付属装置が付属装置を押さえていた被災者の上に倒れた。	372	4	1～9
2004	10	～	17	16 カニクレーン（クローラクレーン）を使用して地下駐車場の鉄骨組立終了後、深さ5.7mの地下から地上へ、ウィンチを使用して作業中、カニクレーンをつり上げる作業を開始したところ、1階天井部に取り付けていた滑車から突然ワイヤロープがはずれウィンチを運転していた被災者がワイヤロープと側壁に挟まれた。	219	7	1～9
2004	10	～	9	8 コンプレッサー装置を2階の設置場所に上げる準備のため、2階の機械搬入用ハッチ（2階床上）を被災者他1名で開ける作業中、ハッチとともに6m下の1階コンクリート床上に墜落した。	414	1	1～9
2004	3	～	15	14 めっき槽に付属する配管の塗装作業中、めっき槽上に取り付けてあったカバーが外されていたが、被災者はカバーがあると勘違いしてカバーの上を渡ろうとして、めっき槽の中に落ちて被災した。	341	11	10～29
2004	9	～	14	13 吸着式冷凍機の冷水タンク配管に電気ドリルで穴を開け、温度センサー用ソケットをアーク溶接機で溶着する作業を行っていた際、何らかの物質に引火して爆発し、同冷水タンクに取り付けられた鉄製の蓋2枚のうち1枚が被災者を直撃した。	418	14	1～9
			10	フィルタープレスの解体作業において、ダンパー上でフランジ取り外し作			



2004	7	～	業を行っていたところ、被災者の体重でダンパーが開き、約8m下の1階床	169	1	1～9
		11	に墜落した。			
2004	3	～	薬品循環タンクの据付け作業中、チェーンブロックを取り付けるためのは	372	4	1～9
		12	しごを地上で支えていたところ、タンクをつっていたシャックルが外れ、			
			タンクの下方にいた被災者にタンクが落下し、激突した。			
2004	1	～	天井クレーンの走行ギア部の異音調査のため、走行中のクレーン運転台の	211	7	50～
		14	踊り場から身を乗り出しながらギア部の目視確認を行っていたところ、後			99
		15	方に迫ったコンクリートの柱に気付かずクレーン運転台のアンクルとの間			
			に挟まれた。			
2004	3	～	工場の設備解体撤去工事において、5基ある配電盤の解体撤去作業中、2基	352	5	1～9
		14	目を倒した時に残りの3基が倒れてきて下敷きとなった。			
		15				
2004	2	～	移動式クレーンで破碎機を架台にのせた後、ワイヤロープを外すために破	418	1	1～9
		14	碎機上部に上り、作業を終えて下りる際に転落した。			
		15				
2003	12	～	工場内に設置されていたジブクレーンの解体工事で、ローリングタワーに	411	1	1～9
		10	載ってクレーンのジブの補強材として取り付けられていたテンションバー			
		11	を取り外したときに、テンションバーを支えていた者がテンションバーの			
			重さ（約50kg）でバランスを崩して4.8m下のコンクリート床に墜落し			
			た。			
2003	12	～	軽ワゴン車で自動車道を走行中、車線規制のため停車していたところに後	221	17	10～
		10	方からきたタンクローリー車に追突された。			29
		11				
2003	12	～	清掃工場で、粗大ごみ破碎施設に設けられたベルトコンベヤ（長さ約	372	4	10～
		13	18m、幅約1m）の交換作業中に、頂上部分でベルトを支えていたワイヤ			29
		14	が強度不足により切れたため、鉄製ベルトが滑り落ちて下敷きになった。			
		13	精米機の据え付け工事において、同僚とシュートパイプ取付け用サポート			

2003	10	～ 14	(寸切ボルト製)の長さを計測しようとしたが寸切ボルトが湾曲していて計測できないため、架台梁に上がって金具を取り外したのち安全帯を外して降りようとしたときに墜落した。	418	1	10～ 29
2003	10	～ 17	タイヤ製造用加硫機のオーバーホールで、加硫機の上半分の部分にあるトップビーム(大きさ:約225cm×約220cm×約61cm、質量:約4.5t)に上プラトン(熱板)を取付け(未固定の状態)でフォークリフト(積載荷重6t)の爪に載せて約1.2m上げて止めたところ、荷が滑り落ちてきて頭部を荷とそばの設備との間にはさまれた。	222	4	10～ 29
2003	6	9 ～ 10	高層住宅のエレベーターのリニューアル工事で、カウンターウェイトのスペーサー付け足し作業のためピットにいたときに、他の労働者が搬器を上昇させたため、カウンターウェイトとカウンターウェイト用ガイドレールの水平材との間にはさまれた。	214	7	50～ 99
2003	6	16 ～ 17	一般廃棄物の最終処分場の浸出水処理施設建設工事において、地下脱窒槽内にろ過装置を据え付けるため、脱窒槽内にベース金具作業・配管等を降したのち地上に上がって脱窒槽の蓋を復旧しているときに、開口部から深さ5.3m下のコンクリート面に墜落した。	414	1	1～9
2003	6	14 ～ 15	焼却炉設置工事において、3人が冷却塔(高さ6m92cm)上でダクトの取付け作業を行っていたところ、ダクトに仮止めしていた蓋(ステンレス製、200kg)のボルトが1本を残して外れて回転したため、その横にいた者が蓋を避けようとして地上まで墜落した。	418	1	30～ 49
2003	6	16 ～ 17	冷蔵庫の改修工事において、冷蔵庫の扉のローラーがガードレール(最高部3.6m)から外れているので、フォークリフトのフォークに上がりレバーホイスト(締付機)を使用して扉を元のレールに戻したのちフォークからマストを伝わって降りようと運転席に足をかけたときに、マストの起伏レバーに触れたためマストが傾いてヘッドガードとの間に腹部をはさまれた。	222	7	10～ 29
		16	工場内に設置されていた1000t鍛造プレスのオーバーホール工事において、立て掛けてあった鍛造プレスの部品「クラッチピストン」(鋼製、直			10～

2003	5	～ 17	径1500mm、厚さ:最大245mm、質量645kg) が倒れてきて下敷きになった。	159	5	29
2003	3	15 ～ 16	熱交換器（質量1280kg）の据付けのため、台車からチェンブロックで つり上げて2階の所定の位置に設置しようとしたときに、チェンブロッ クのつり下げ用に取り付けた天井の固定金具のアンカーボルトが天井から 抜け落ちたために熱交換器本体が落下し、その下敷きとなった。	419	4	10～ 29
2003	3	17 ～ 18	資材置場の駐車場において、トラックを方向転換させようとしたが雪のた めスリップしたので、安全ネットを巻いて様子を見ていたところトラック が後退し始めたので止めようとしてトラックの後方に回り、トラック後部 と資材置場の事務所壁面にあったスチールの棚にはさまれた。	212	6	1～9
2003	3	16 ～ 17	配管の断熱材の取付作業中に、約5m下の床上に墜落した。	391	1	1～9
2003	3	14 ～ 15	新設化学プラントにおいて、反応器の配管及びバルブの保温作業中に高さ 3.72mの足場から墜落した。	411	1	10～ 29
2003	3	11 ～ 12	バッチ炉のフード取付け作業で、2名の作業員が水平バランスを調整する ためフードの上に乗りターンパックルを調整していたところ、屋根の梁 (みぞ型鋼) にボルト止めしたつり具の1本が上端部より外れてフードが 傾き、2名がコンクリート床面に落下したが、その直後に残りの3本のつり 具も外れてフードが落下し、一名の頭部を直撃した。	391	1	1～9
2003	2	2 ～ 3	パチンコホールのコイン補給機の入れ替え工事を終了して自動車道を走行 中、道路上の障害物（たぬきの死骸）を避けようと急ハンドルを切ったと きに中央分離帯に衝突した。	231	17	30～ 49
2002	6	1 ～ 2	業務中に転倒し、湖で遺体で発見された。（溺死の疑い）	911	90	1～9

2002	10	15 ～ 16	ケーブルクレーンの主索張り替え作業において、山頂側タワー付近で主索のクリップ止め作業を行っていたときに、工具（ラチェット）を山の斜面に落としたので、それを拾うため安全帯のロープを外して山の斜面に立ち入り崖から沢に墜落した。	711	1	10～ 29
2002	12	14 ～ 15	コークス炉解体物の仮置場において、コークスを炉から運搬車に移すガイド車を解体するためガイド車のドアリフター架台（重さ18 t）のロックピンをガス溶接機で切断したところ、リフター旋回シリンダーが開いてリフター架台が直近で作業していた者の方に倒れたため、リフター架台端部と地面との間に挟まれた。	391	5	10～ 29
2002	12	10 ～ 11	地下2階の排水タンクのスラブ上で、配管サポート金具にFRPライニングによる耐食加工を行うための下見していて、3.95m下のタンク底に墜落した。	414	1	1～9
2002	11	16 ～ 17	水質管理センターの沈砂池機械設備の改造工事において、沈砂排出機の補塗装を行うため点検口より中へ入ったときに、メーカーの試運転立会者が機械を動かしたため、沈砂排出機コンベア内の羽根に挟まれた。	224	7	30～ 49
2002	10	13 ～ 14	浄化槽の設置工事において、深さ約2mの明かり掘削溝内で掘削底の補強を行うため角材を設置していたときに、掘削面の土砂が幅2.6m、奥行0.6m、高さ2.3mに亘って崩壊し胸部まで埋まった。	711	5	1～9
2002	10	14 ～ 15	休止していた水管ボイラーの使用再開の準備中、メインバーナーの着火に2回失敗したので燃料弁を遮断しようとしたときに、ボイラー炉内で爆発が起り煙道側でボイラー外壁ケーシングの取り付け作業をしていた2名が全身火傷を負った。	311	14	1～9
2002	10	14 ～ 15	休止していた水管ボイラーの使用再開の準備中、メインバーナーの着火に2回失敗したので燃料弁を遮断しようとしたときに、ボイラー炉内で爆発が起り煙道側でボイラー外壁ケーシングの取り付け作業をしていた2名が全身火傷を負った。	311	14	1～9
		9	ダイオキシン対策のための焼却設備の増設工事において、屋根（高さ約15m）に設けた開口部からトラッククレーンで荷（質量約4 t）を吊り上げ			

2002	8	～	て搬入中、屋上の雨除け用シートの重しに使用していたH鋼に吊荷が接触したため、H鋼（長さ4m、質量約200 k g）が落下し、一度ダクトに当たってバウンドしたのち足場上で荷を待っていた者の背中に激突した。	212	4	10～ 29
2002	10	～	天井裏に保温材を敷き詰める作業で、作業灯用に天井裏まで延長コードを10m×4本、30m×1本を継ぎ足して使用していて、作業終了後に延長コード1本ずつ巻き取りながら天井裏昇降口へ向っていて10mのコードを巻取るため延長コードの次のコンセントを差し込んだとき差込方法を誤り感電した。	351	13	1～9
2002	10	～	スキー場のゴンドラリフト頂上駅新築工事において、ゴンドラリフト押送装置を設置するため駅構内の高さ約4.5mに設置されたH鋼（幅30 c m）上を歩いていて墜落した。	418	1	10～ 29
2002	6	～	フォークリフト（積載荷重1 t）にガス発生装置（重さ約2 t）を載せフォークを上昇させたところ、その直後にバランスを崩してガス発生装置が工場の壁に倒れかかり、その作業の補助をしていた者がガス発生装置と壁との間に挟まれた。	222	7	1～9
2002	5	～	RC造5階建て建物解体現場の3階において、4階スラブ小梁を補強（4階に重機が乗るので）するための支柱（514.5cm）を立てる作業で大引き受けジャッキの微調整を行っていたところ、支柱が倒壊し支柱共々地面に倒れて支柱の下敷きになった。	411	1	1～9
2002	4	～	上水道の立坑内の最下層（地下6階）で電気設備の取り付けを行うために排水ピット内の滞水を排除する必要があったので、地上にいた同僚に排水ポンプのスイッチを入れるように合図し同僚がスイッチを入れたときに、電源盤の誤配線のため上水道管の地下5階の位置に取付けられた仕切弁が開放されて水が噴出し、逃げ遅れて溺れた。	391	10	1～9
2002	5	～	NCラインの設置工事において、バリニーダー（混合機、重量約1.5t）を工場内に搬入して据付け位置調整のためジャッキアップしてローラーを取り付けていたときに、機械のバランスが崩れて横転しその下敷きとなった。	162	5	1～9

2002	4	13 ～ 14	鉄筋コンクリート造2階建て住宅の幅約50cmの1階ひさし上において、外壁のエアコン用ダクトの取外し作業を行っていたときに、高さ約3.6m下のタイル床面上に転落した。	418	1	1～9
2002	4	17 ～ 18	工場内のボイラ2基を撤去し新規ボイラに更新する作業で、ボイラ1基を解体したのちスレート屋根のボイラ煙突部分の空間を塞ぐ作業を行うための鋼製足場板（190cm×25cm）3枚を煙突方向に向って置いて行ったときに、煙突の空間部付近でスレート屋根を踏み抜き5.20cm下の床面に墜落した。	415	1	1～9
2002	4	11 ～ 12	自動車工場内の制御盤電源ケーブル敷設工事において、高さ7mの梁（幅約25cm）上に動力ケーブルをかり渡すため、梁上で動力ケーブルを渡していて墜落した。	415	1	10～ 29
2002	4	16 ～ 17	古紙再生用のサイロ（直径3.5m、高さ約9mの円筒状）へ古紙を溶かした水を供給するための水路（幅3m、高さ1.34mの角型ダクト状パイプ）の上面に直径60cmのマンホールを造るため、水路の中で溶接していてサイロの中へ7.7mの高さから墜落した。	391	1	10～ 29
2002	3	11 ～ 12	邸宅のソーラー温水器の取外し工事で、ソーラーパネル（長さ1.5m、幅1m、厚さ0.85m、質量25kg）を2名で伸縮式はしご（長さ7.15m）を利用して降りていたところ、はしごの上部より1.92mのところではしごが折れ、1名が高さ約5mのところより転落した。	371	1	1～9
2002	4	11 ～ 12	工場内の回収酸タンク新設工事現場において、トラックで搬入したタンクの屋根部材（ステンレス鋼板、長さ7.5m、質量300kg）10枚をトラッククレーン（つり上荷重：110 t）で吊り上げ仮置き場に運搬していたときに、荷がベルトスリングから外れ合図者の上に落下した。	372	4	10～ 29
2002	3	1 ～ 2	空港国際線ターミナルビルのボーディングブリッジ（旅客搭乗橋）定期補修作業で、高さ2.2mの移動足場に乗り目視点検を終えて地上に降りようとしてバランスを崩し転落した。	411	1	1～9
2002	3	15 ～	工作機械の前後移動用油圧シリンダーの交換作業で新しいシリンダーを取付けるため機械下部の位置合わせ中、シリンダーが突然伸びて取付け部分	169	7	50～

		16	に激突して、機械が前に押し出され頭部を挟まれた。			99
2002	3	13 ～ 14	雨水調整池内の換気設備設置工事において、調整池の上段梁で足場を組み立てる作業中に足場作業床より足を踏み外して、約16m下の調整池の床に墜落した。	418	1	10～ 29
2002	2	14 ～ 15	天井クレーン移設のため、移動式クレーンを用いて子フックで吊上げたが上がらなかったため親フックで吊上げることとし、ガーターから上の大梁に乗って子フックの格納作業中に墜落した。	211	1	1～9
2002	2	11 ～ 12	産業廃棄物処理施設工事において、床板取付け作業中にチェンブロッックで仮吊り（1点吊り）されていた床板上に乗ったため、床板が傾いてコンクリート土間に墜落した。	418	1	10～ 29
2002	1	16 ～ 17	地上約43mのサイロ上のコンベアー付近で集塵ダクトの取り替え工事中、コンベアー上に設けられた覆いの上からサイロの上まで約8.3m墜落した。	224	1	50～ 99
2001	12	3 ～ 4	電気集塵機の改修工事を終了しワゴン車で自動車道を走行中、ガードレールに激突し、ワゴン車の後部座席にいた者が死亡した。	231	17	1～9
2001	10	13 ～ 14	汚泥再生処理センター建設工事において、発酵槽のマンホール点検歩廊（高さ4.83m、手すり有）上で自動弁点検歩廊の設計に係る実測作業中に墜落した。	416	1	50～ 99
2001	11	17 ～ 18	発電機建屋に取付け予定の金属製壁パネル（質量565kg、輸送のため2枚を合わせ1組としたもの）を建屋前の資材置場に立てて仮置したところ、約15分後に倒れ別資材点検のために居た別作業班の作業者が下敷になった。	611	5	1～9
2001	11	10 ～ 11	火力発電所の石炭灰処理工程で遠心分離機のメンテナンス（ろ布交換）を行っていて、本来整備すべきであった分離機と違う分離機に誤って入って作業し、分離機が自動制御で回転したため巻き込まれた。	161	7	1～9
2001	11	11	クレーンの組立工事で最終のボルトの本締めを終了し、ボルトのマーキングをマジックペンによりクレーンの歩廊から行っていて2.5m下の鉄枠上	211	1	10～

		12	へ墜落した。			29
2001	9	9 ～ 10	リボイラー(質量430kg)5基の据付作業のため、10tトラックで運ばれてきたものを2tトラックの荷台に寄せ代えて搬入し、荷降ろしのためバックで定位置に停車しようとしたところ、歩道の縁石に後輪が当たり急停止したため荷台上で5基のリボイラーが将棋倒しとなり、荷台後部に乗っていた者がその下敷きになった。	612	5	10～ 29
2001	8	10 ～ 11	工場のタンク等の増設工事において、高さ8. 1mの鉄骨上作業床の端から地上に墜落した。	418	1	1～9
2001	8	0 ～ 1	機械メーカーの工場2階において使われなくなった機械部品搬送コンベアの撤去工事を行っていて、搬送コンベアの昇降部分の開口部から約7m下の1階昇降路の床に墜落した。	414	1	1～9
2001	8	11 ～ 12	屋根上(高さ3. 7m)でエアコンの取付工事を行っていて墜落した。	415	1	10～ 29
2001	7	9 ～ 10	ライトバンで国道を走行中、大雨で路面がぬれていたため追い越し車線上でスリップして車体が横向きになったままセンターラインを超え、対向の大型トラックと正面衝突した。	221	17	1～9
2001	7	16 ～ 17	熱交換器などの整備工事において、足場組立作業に従事していた者が場内をふらふらしながら歩いているのを発見し病院へ移送したが死亡した。 (多臓器不全)	715	11	30～ 49
2001	6	11 ～ 12	砕石用ベルトコンベアーの解体工事において、溶断したベルトコンベアーの点検用歩廊を移動するため吊り上げ荷重25tのホイールクレーンで吊り上げて旋回したところ、手すり部分と歩廊部分が腐食のため剥がれて歩廊が落下し玉掛者を直撃した。	521	4	1～9
		9	焼却炉のストーカー(火格子)部のヨーク(ストーカーを引張り上げるアーム部品で重量528 k g)をフォークリフトでトラックで目的地(炉室)まで運搬			



2001	6	～	し、ヘッドガードとマストの間に乗りレバーブロックを緩めていたとき 10に、体の一部がマストの前後レバーに触れたため、マストがヘッドガード 側に傾き挟まれた。	222	7	10～ 29
2001	5	～	15セメント製造プラント構内にある倉庫のシャッター開閉器の交換作業で、 16移動はしごを4mの位置にたてかけ故障したモーターを取り外し、部品を 地上へ降ろして再び梯子を昇っているときに墜落した。	371	1	1～9
2001	3	～	10定修工事において、煙道下のステージ上で塩ビ管の移設作業を行っている 11ときに、ボルトが足りないことに気づきボルトを取りに行きステージ上 の開口部(45cm×45cm)から約10m下の地上に墜落した。	416	1	1～9
2001	1	～	工場構内の、排水管(径70cm)を取替えるため排水管を移動式クレーンで 11吊りながら溶断していたところ、排水管のL部が支持していた架台にひっ 12かかったのを直そうとしていたときに、突然、架台から外れたためその反 動で排水管(2.7t)が揺られクレーンの合図者が排水管と既設の排水管と の間に挟まれた。	212	6	1～9
2000	6	～	18立体駐車場の建設において、作業用のゴンドラを移動式クレーンでトラッ クから荷卸しする作業で、ゴンドラに乗って1台目に玉掛したのち2台目に 19移動し、トラック荷台のあおりを降ろしてゴンドラを吊り上げたところ荷 台に勾配があったため2台目が滑りゴンドラとともに約1.3mの地面に転 落し約500kgのゴンドラの下敷きになった。	612	1	300 ～ 499
2000	6	～	15病棟の建替工事で、物干しバルコニーに設置されていた給気ファンの防振 処理を行うため被災者がアルミ製脚立にまたがって給気ファンを持ち上げ 16ようとしていたところ、漏電していたと思われる電工ドラムが脚立に接触 し感電した。	351	13	10～ 29
2000	7	～	13河川の排水機場において、流れてくるゴミを収集する装置のバケットが上 14昇したまま下降しなくなったので修理のためバケットに足をかけたとき に、バケットとともに約8m下のピットに墜落した。	219	1	10～ 29
			15工事材料を取りに行くため原動機付自転車で走行中、右折して進入するた			

2000	9	～ 16	めに道路中央線付近に停車していたところへ後方からきた貨物自動車が追突し、前方に停車していた貨物自動車との間に挟まれた。	221	17	1～9
2000	2	11 ～ 12	ベルトコンベア投入口の梁上を歩いていて墜落した。	415	1	1～9
2000	12	16 ～ 17	2段式駐車装置の設置工事において、前日に完成した駐車装置の点検作業中に駆動チェーンの安全ピンを誤って抜いてしまったため、チェーンが外れてパレットが落下し、パレットの下で作業中の者2名が下敷きになり1名が死亡した。	419	4	1～9
2000	11	9 ～ 10	アースオーガーで荒堀された穴(縦100cm横75cm深さ220cm)の中で、手堀りで岩石の除去作業を行っていたときに、アースオーガーの運転者が気付かずにドリルを穴の中に入れて掘削させたためドリルに巻き込まれた。	142	7	1～9
2000	6	4 ～ 5	工事現場に向ってワゴン車で国道を走行中、信号待ちで停車していたときに、後方から走行してきた4tトラックに追突され、前方に停車していた10tトラックとの間に挟まれた。(同乗の2名も死亡)	221	17	100 ～ 299
2000	6	4 ～ 5	工事現場に向ってワゴン車で国道を走行中、信号待ちで停車していたときに、後方から走行してきた4tトラックに追突され、前方に停車していた10tトラックとの間に挟まれた。(同乗の2名も死亡)	221	17	100 ～ 299
2000	12	11 ～ 12	工場の梁上約12mに設けられた空調機のコイル(質量約30kg)を梁上に設けた運搬用台車に運搬していたときに台車端の開口部から工場床に墜落した。	362	1	1～9
2000	11	9 ～ 10	倉庫内で各現場より集積された残材等の片付け中、脚立より2.7m下に転落し頭部を打撲した。	371	1	10～ 29
2000	6	9 ～	醤油粕粉碎処理装置のフレームの上で他の作業員の作業を確認していてバランスを崩し、装置フレーム端から4m下のアスファルト床へ墜落した。	162	1	30～ 49

		10				
2000	5	17 ～ 18	製造設備の据付作業で、架台の作業床(高さ約5m・手すり無し)上でホッパー等を据え付ける作業を行っていてコンクリート床に墜落した。	418	1	1～9
2000	4	8 ～ 9	公共下水道終末処理場の電気設備工事において、電気室内に設置された配電盤(質量2.5t)の据え付け位置変更を変更するためジャッキを使用していたときに、配電盤が倒れその下敷きになった。	612	5	10～ 29
2000	8	14 ～ 15	工場に機械を設置する工事において、ローラーコンベアー(床上60cm)上で手持ち式グラインダーにより溶接余盛を削っていたときに、グラインダー砥石が左上腕部の長袖作業着に巻きつき、左腕に切り傷を負い、次いで床面に転落した。	153	90	1～9
2000	3	15 ～ 16	浄水場内の洗浄ループ管の取替工事において、洗浄ループ管の圧力試験を行うため水压(約5 k g / c m <sup>2</sup> )をかけたときに洗浄ループ管に取付けていた回転枝管が回転したため、回転枝管のノズル補修作業を行っていた者が巻き込まれた。	391	7	1～9
2000	9	17 ～ 18	配電盤等の搬入作業終了後、使用機材の門型治具をチェンブロックで傾斜吊りして、4階から1階へ降ろそうとしたときに、治具がマシンハッチ方向に振れたため、それに背中を押されてマシンハッチから18m下の1階床にたたきつけられた。	361	1	100 ～ 299
2000	2	15 ～ 16	エレベーターかごの上部で屋上スラブの穴開け作業を行い、13階のエレベーター出入口から出ようとしたときに、エレベーターかごと出入口上方との間に身体を挟まれた。	214	7	0
2000	11	5 ～ 6	厨房機器の搬入のため1.5tトラックで国道を走行中、下り坂のカーブを曲がろうとして凍結した路面でスリップし、ガードレールを突き破って転落した。	221	17	1～9
2000	10	15 ～	円筒形ベルトコンベアー(長さ約33.5m、径約1.95m)を移動式クレーン2台で吊り、骨材コルゲートサイロの中央上部に据え付ける作業中に、約	391	1	1～9

		16	12m離れたところにある荷締材レバーブロックを取りに幅約50cmの歩廊を移動したときに歩廊から約8.5m下の地面に墜落した。			
2000	11	11 ～ 12	膨張タンクの解体作業を電動工具で行っていたときに、ブレーカーが落ちたので、復旧するため電源のあるエレベーター機械室内を歩行中、口部から足を踏み外し約16.35m下に墜落した。	418	1	1～9
2000	8	16 ～ 17	放射性廃棄物処理建屋内において、機械設備の点検・補修、床清掃の際にでる放射性物質を含む汚水を回収するサンプタンクで残水の処理作業を行っていた労働者の体調が悪くなったので救助に向かったときに、縄はしごから転落した。	999	1	100 ～ 299
1999	3	0 ～ 1	2軸破碎機及び排出コンベヤー据付工事でゴミの投入口に異物をためておくための支え板の溶断作業をフラップの上ののって行っていたところ、ストッパーが外れてフラップが下へ動いたため開口部となり、そこから約4メートル下へ墜落した。	416	1	50～ 99
1999	12	17 ～ 18	モノレールの塗装専用車の試運転で、4回目の復路の停止予定地点に到達する前にブレーキをかけたが停止せず、そのまま予定地点を通過してターミナルである点検車庫内に停車していた作業車に激突し、乗員5名のうち運転をしていた1名が死亡した。	232	3	50～ 99
1999	12	13 ～ 14	県道付設工事におけるトンネル坑口等の地質調査のための設備を運搬するケーブルクレーンの支柱に控えをとる作業で、約30度の傾斜地の杉の木に固定するとボルトをジェットレンチで締めているときに、レンチが外れたためバランスを崩して下の道路に転落した。	711	1	1～9
1999	10	10 ～ 11	倉庫天盤部の屋根材(スレート)補修作業で、屋根中央部に登り補修材料(スレート)の見積もりをしていてスレートを踏み抜き5.62メートル下のコンクリート床に墜落した。	415	1	1～9
1999	9	5 ～ 6	工事現場に向うため社用車で国道を走行中、対向の4人乗りの乗用車がセンターラインをはみ出してきたため正面衝突した。	231	17	10～ 29

1999	11	19 ～ 20	炭酸ガス吸収塔内部の充填物の入れ替えの作業中、半円状の充填物が塔の上部で詰まって取れなかったため下部のマンホールから入ったところ、充填物(約6t)が崩れ落ちてきた。	529	5	30～ 49
1999	10	13 ～ 14	ダムゲート修繕工事の準備作業で、水門上部にチェンブロックを取付けるためゴンドラの搬器に作業員が乗り、ウインチで水門上部に引き上げたところ、滑車を固定していた台付けワイヤーが滑車のフックから外れたため搬器が約25m下に墜落した。	216	1	10～ 29
1999	9	16 ～ 17	自販機を鋼製枠から移動式クレーン(吊上荷重2.93t)を使用して回収するに際し、ベルトスリングで1本吊りして仮置き後、ベルトスリングを付け替えるため自販機を引っ張り出していたところ、ベルトスリングが外れて自販機が倒れてきて胸部大動脈が破裂した。	372	6	1～9
1999	8	1 ～ 2	ベニヤ板等をトラック(総重量25t)に積み、自動車道を走行中、前のトラックに追突した。	221	17	10～ 29
1999	8	15 ～ 16	砂利などを入れる骨材ホッパーのボルト締めを行っていて、同僚と作業を交代するため、木製足場(幅約23.4cm)上を移動中に約4.6m下の地面へ墜落した。	411	1	10～ 29
1999	7	0 ～ 1	2階のルームエアコンの取り替え工事で、1階屋根部分で古いエアコンの室外機を取り外そうと作業しているときに、屋根の端(高さ約4メートル)から隣接するマンションの駐車場に墜落した。	415	1	1～9
1999	7	9 ～ 10	集じん機の据付場所変更のため、集じん機の上に乗って玉掛ワイヤーを取り付けていたところ、同工場内で作業を行っていた別の天上クレーンが走行してきたため、クレーンのガーターと集じん機との間に腹部をはさまれた。	211	7	1～9
1999	7	10 ～ 11	ホテル内の地下汚水処理施設の浄化槽(沈殿槽)下部に溜まった汚物を除去する作業を単独で行っていた者が、通路上に倒れているところを施設内に入った作業員(別会社)によって発見された。	514	12	30～ 49

1999	6	16 ～ 17	製紙工場の設備修理作業を終え、工場3階の屋外階段を使用して工具類を下に降ろしているときに工具を階段下の天張り部に落していまい、それを取りに階段下に入った同僚が階段下を塞いでいるケイカル板を踏み抜き、天井下地材にぶら下がり助けを求めたため、助けようとしたが同様に踏み抜いて、2人とも約9. 5m下に墜落した。	418	9	10～ 29
1999	6	15 ～ 16	砕石プラント内のベルトコンベヤ等の機械調整を行っていて、ベルトコンベヤのゴムベルトとテールプーリーとの間に右腕から肩にかけて巻き込まれた。	224	7	1～9
1999	2	14 ～ 15	ボイラー室のエア配管ブラケットの補強作業を地上約4メートルの位置で溶接作業を行っていて、作業終了後にはしごを降りる途中で墜落した。	371	1	10～ 29
1999	5	13 ～ 14	自動織機の工事で使用する材料を2人で取りに来て、1人が建物内に材料を取りに入っているときに、「ドサッ」と外で音がしたので見に行くと、同僚が倒れていて後頭部を打撲していた。	999	99	30～ 49
1999	6	14 ～ 15	200tの移動式クレーンにより吊り降ろされた鋼管をプレス機械の据え付け場所に置き、仮止めしないまま玉外しをしたところ不安定な鋼管が転がり落ちてきて支えきれなかった被災者は鋼管とともに墜落した。	521	6	10～ 29
1999	5	9 ～ 10	電線管布設作業で、電線管のねじ切り作業を行うためねじ切り機にパイプをセッティングしていたときに、ねじ切り機の回転部に首にかけていた安全帯のロープが巻き込まれて安全帯のロープにより首が断裂した。	159	7	1～9
1999	5	16 ～ 17	排水処理施設の解体撤去作業において、タンクの上半分を溶断し、移動式クレーンで吊上げて地切りした直後に荷が振れ、荷と単管手すりとの間に挟まれた。	611	6	1～9
1999	4	10 ～ 11	2階フローア増設のためのユニットをトラッククレーンで吊り上げ、ジョイント部を2階既設フローアに差し込むために増設ユニットに乗ってチェインブロックのフックを掛けようとしたときに、約4. 4m下の1階コンクリート床に墜落した。	611	1	1～9

1999	4	14 ～ 15	精米プラントの解体工事のため、バケットエレベータの点検床に乗って床 およびタラップとの接続箇所をガス溶断していたところ、2本のボルトで 固定されていた点検床が作業者の体重と自重により抜け落ち点検床と共に 5. 25メートル下の土間コンクリート上に墜落した。	418	1	1～9
1999	3	9 ～ 10	新築工事現場において、ドライチャンバー室内の資材等の片付け作業中に コンベヤーの土台から深さ88cmのピットに転落した。	418	1	1～9
1999	3	16 ～ 17	窒素による配管リークテスト実施中、伸縮管付フランジから漏れを発見し たのでボルトを締め付けているときに、伸縮管が破裂した。	391	15	10～ 29
1999	1	11 ～ 12	脚立の上で作業中に誤って足を滑らして転落し、頭部と足を打った。	371	1	1～9

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pg/SIB\\_FND.html](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html)(職場のあんぜんサイト)

[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311\\_01.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_01.html)に戻る。